

增補考古畫譜

卷八



增補考古畫譜卷八

黑川春村原稿

古川躬行纂輯

黑川真賴增補



知部

中殿御會圖 一卷

畫右京權大夫信實朝臣公宴之侍臣容貌寫真記
文并書從三位行能卿

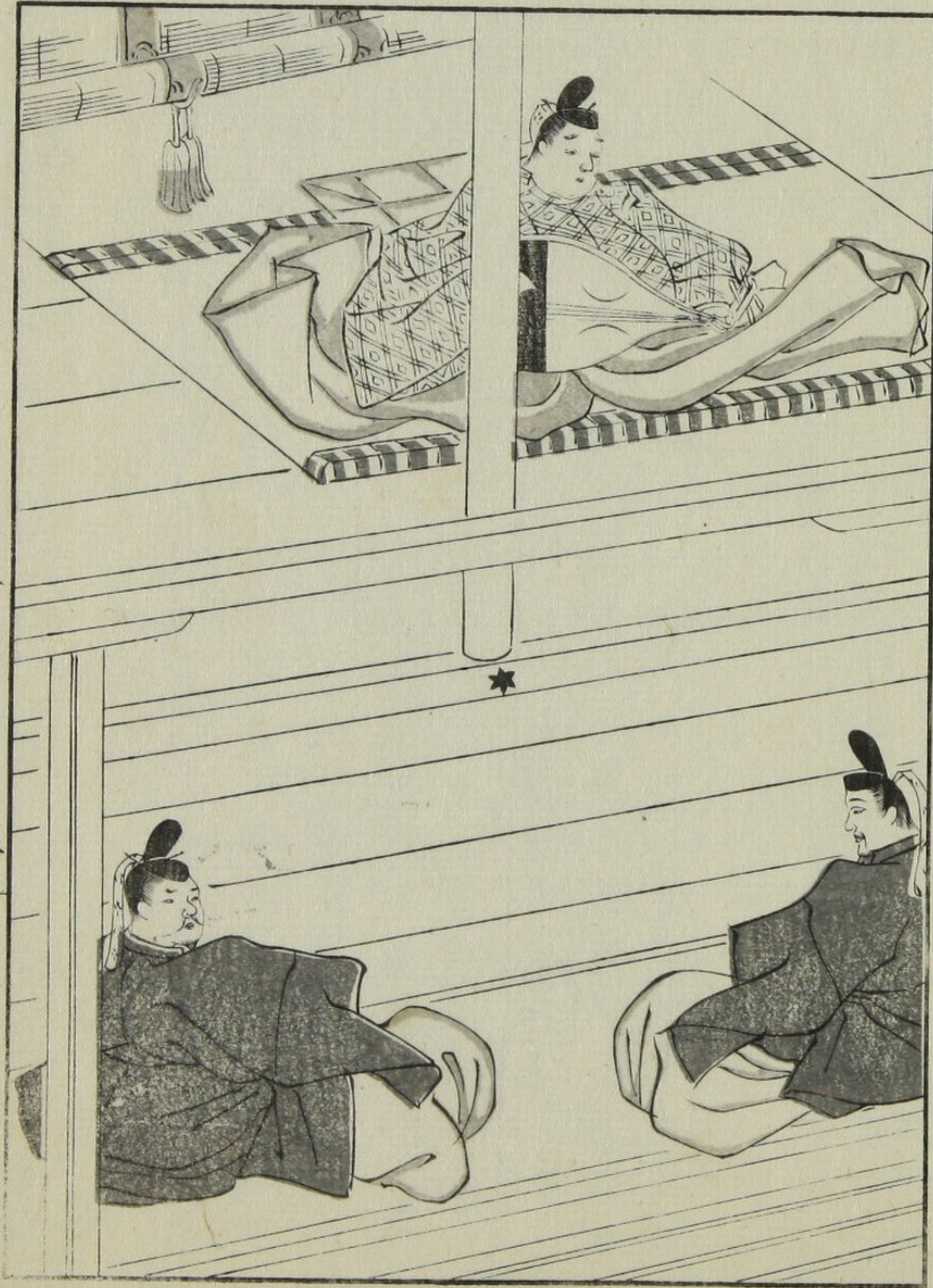
補倭錦云信實建保中殿御會圖

補好古小錄上卷云中殿管絃圖一卷画信實

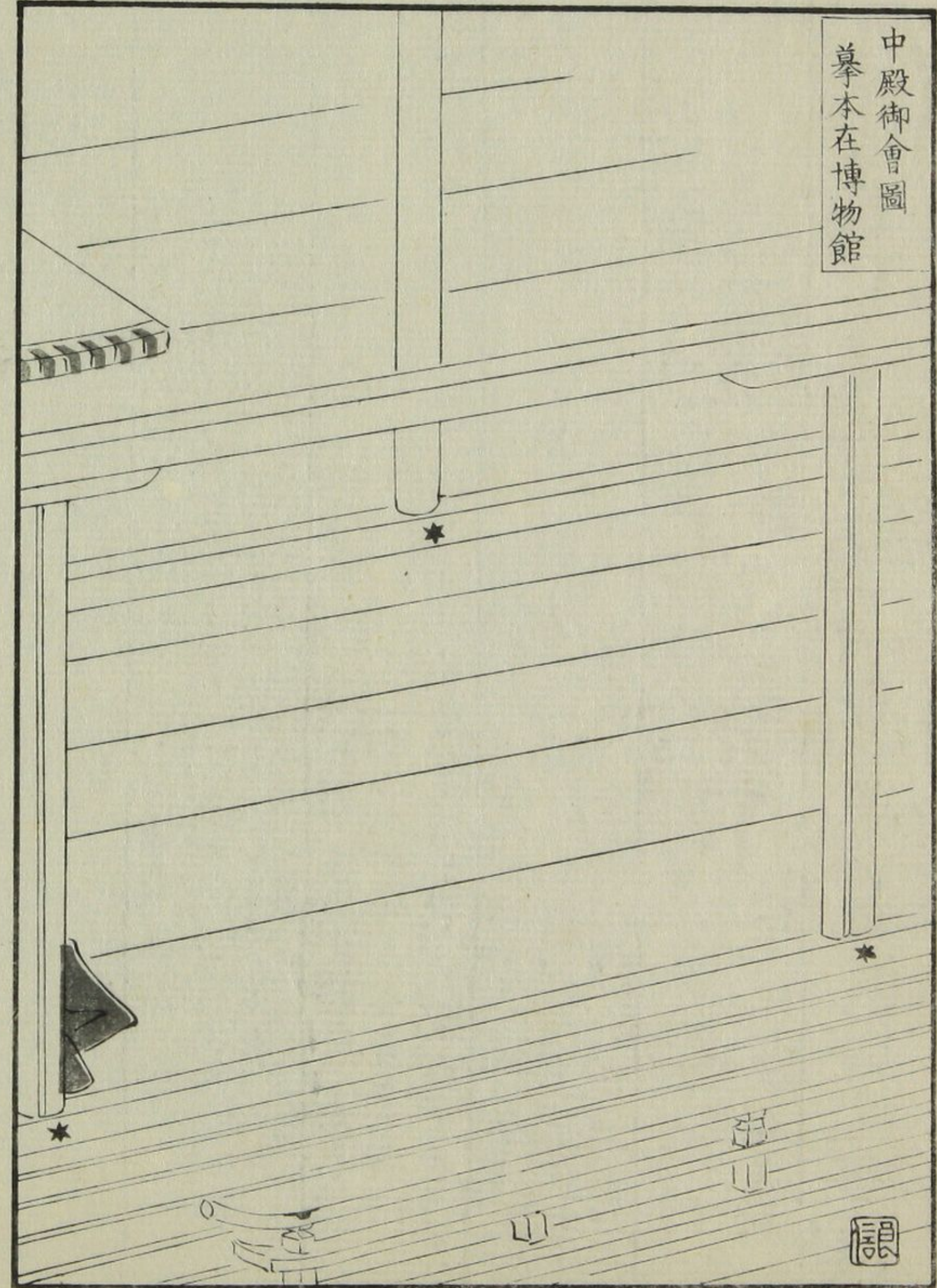
補本朝画圖品目云中殿御會之圖画及書信實朝

臣

補古畫目錄云中殿御會圖左京權大夫信實筆圖



中殿御會圖
摹本在博物館



滿院宮御内圓山主水藏

本朝畫史云信實藤隆信子也工和歌尤長於寫真諸畫亦優柔為中世妙手九條殿家有順德院中殿御會圖中殿清涼殿也曾集群臣各把樂器會為一大卷當時之名臣皆列于圖信實亦預

粉本記云此一軸者順德院御宇建保六年於清涼殿開公宴圖也行能信實陪其席行能記公宴大概信實圖勝會及群臣真容可謂千歲珍奇也其真跡秘官庫不得輒見伯三位雅喬王書寫之訖寬文龍集戊申仲春上浣朝議大夫侍讀吏部少卿清原經賢押

補元翰曰好古小錄到中殿管絃圖と載たるハ是あるべし江戸よて著色したるを見たり恐

らくハ松平越中守定信朝臣の藏本ふて同人の私意小出さるものあるべし其類多くあり板谷慶舟曰九條殿御本於彼御殿燒失了依之住吉如慶奉命以重代粉本画之

字喜田可為曰原本白描今猶存于九條殿貫雄曰狩野永納所寫有着色之本躬行曰中殿御會圖の結構設色おらん事疑ひあゝるべく博物館粉本亦着色あり但群書類從第二百八十一收之縮圖小且精しおらび

補真頼曰博物館摹本ハ次第及詠哥等を盡く去るせり

補同異本

補世小傳ふる信實朝臣のあらくものと圖いさ

さる異あり。故小異本と称す

補春村曰。異本ハ人形少しちひさく画品もおとゞころものあり

補元幹曰。群書類後小収むるところこそ歟

陣座寄障子

江家次第軒廊云。左近陣圖。李廣射石。養由駄猿。仍左官人多善射。右近陣畫。伯樂逢塩車。仍右官人多能騎者

古今著聞集卷十云。陣の座の上小。李將軍が虎を射さる障子をよせりけ。按書殿ハ。養由基が猿を射さる障子を寄立さり。是こあいつまの御時よりといふことをあらび。由緒あるごとくおぼつらふし。閑院小大内をうつされてのちよさうま

瀧真頼曰。陣座寄障子ハ清涼殿陣座李將軍射虎御障子におふしせノ部見合をへし

の御さうじ。あらび小。李將軍養由が障子ふど。沙汰ありりるを。四條院の御時。西園寺相國禪門修理せらまけるとき。頭中將資季朝臣申起。たてられさり。いと興ある事あり

地獄繪御屏風

枕雙紙云。御佛名のあし。地獄繪の御屏風とて。こさして。宮小御らんぜささ奉て給ふ。いこじうゆ。しきことかきりあし。古今著聞集卷十云。弘高地獄變の屏風を書き。小樓の上あり。梓をさしおろして。人をさし。さる鬼をかきたてける。ことにさましひ入る見。見けるを。こづりらいひける。恐らくハ我運命はきぬと。こさしていくほどふくて失おきり

拾遺集十雜地こくのかこ書こるをみく藤原道雅
女みはを川こささをもありけりあ小
小衣をぬきてかくらむ
金葉集下雜地獄の繪み。劍の杖み人のほらぬあき
たるをこよめる和泉式部あさましやける
されえをのたとむま傳このみれあきる
なるらむ

補天養元年記云。十二月十九日壬午今日御佛名
也云云。木工打簾代副御簾立几帳一基畫御其内
敷掃部司縁帖一枚為内侍候所其後北昆明池障
子押南間為後隔東立地獄變御屏風二間東格子
下豎之

巨勢系圖云。一條院御宇長樂寺地獄画。廣高畫之

本朝畫史云。巨勢弘高名拔其尤。為具平親王所重
曾画地獄變相

補地藏菩薩像

補狩野探信藏巨勢金岡筆

補晏川曰左手に寶珠をもち右手に錫杖をもち
ち雲中にて了像あり運筆はなほ力あり

補同

補拾葉鈔下卷云。謹啓諷事佛經衆僧云云。宝積寺
説經供養奉造立一間四面梵閣一字奉圖画地蔵
薩埵尊像一千軀奉讀誦妙法蓮華經二万余部

補同 一鋪

補博物館藏地蔵菩薩像巨勢公望筆。住吉廣尚鑒
定書云。地蔵尊但六道一鋪。右巨勢公望真筆無疑

新編 古書目録 卷八

者也。文政六癸正月廿一日住吉内記廣尚判

補真頼曰。紺地絹本。ふして筆意たゞあらび。彩色精美をきまめたり

補同 一幀

補繪巨勢公望絹本。博物館藏

補真頼曰。地白緑の塗潰し。みて赤雲の上。みたり。像あり

補又曰。巨勢公望の地藏菩薩の像。博物館ふ二幀あり。紺絹のふこと。にきくまさり

同

倭錦云。巨勢金岡地藏尊

貫雄曰。鎌倉圓覺寺藏大幅あり。又小幅一幀住吉家所藏あり

同 一幀

右京權大夫信實朝臣筆

田代義倫所藏

同

本朝畫史云。等持院丞相尊氏公。政務之暇好畫圖。其所寫有地藏像。自加贊詞於其上

倭錦云。尊氏公自画贊地藏。京若王寺什物

同

名畫拾彙云。義詮公。岩画地藏尊像。今在京師東山若王寺

倭錦云。宝篋院義詮公書畫一筆地藏像。京師等持院什物

同

古書目録 卷八

建禮門院右京大夫集云おもひおこして及古之
と出して料紙おとろせて経のきまごさふら
打をく文字のみゆるがまこゆけきバ裏おもの
おしかくして手はうら地藏六たいもごがきふ
書まゐらせなどさまるくのころざしをら
又人めはましけきバうときひとふも志らせ
ひこころひとつおいとふむかふしもあはさ
へがさしをくふあるちのひたのえて寫しおく
かあらをむつのみち志るへさよ

画工便覧云建禮門院右京大夫後号夕霧尼世尊
寺修理大夫行能女歌人好圖繪

躬行按ふ分脈小建禮門院右京大夫ハ世尊寺
伊行朝臣女伊經朝臣の妹行能卿ふハ叔母小

しる母ハ伶人大神基政女夕霧と號を然るを
便覧小母子を一人とし叔母を子とせり何ぞ
かく杜撰なるや

補同

補同 倭錦云巨勢源慶地藏尊

補同

補同 書云宅磨為遠地藏尊

補同

補同 書云長隆地藏尊

補同

補新編鎌倉志卷二荏柄天神の條云源尊氏自畫自讚地
藏一幅讚文如左夢中有感通令我畫尊容利濟編
沙界善根無所窮為天化藏主仁山書文和四年六

月六日トアリ仁山ハ尊氏ノ道號ナリ梅松論ニ尊氏自毎日地蔵ヲ圖繪シ自讚御判有トアリ

補同

補駿河國清見關清見寺蔵

補同書條同云駿州清見寺ニモ荏柄天神社蔵ノ圖ノ如クナル尊氏自讚ノ地蔵ノ像アリ

補同

補親長卿記云文明三年正月廿五日今日自禁裏

舊院宸筆地藏繪像并御持蓮花之内弥陀三尊被造

送口菟水精等供養被仰惠忍上人元應寺長老僧也云云

補真頼曰舊院ハ後花園天皇あり

補同

補忍性菩薩行狀略頌云良觀上人諱忍性父伴貞

行母復氏和州城下屏風生云云二十四歳仁治元窮情上人聽古迹則觀無常捨身財悉施貧乏圖佛像遁世後住西大寺圖文殊像摺般若自建治三至弘安文殊二幅每月圖八十七歳嘉元元圖畫地蔵與男女一千三百五十五

補地蔵尊十王圖

補倭錦云土佐行廣地蔵尊十王

補同

補同書云巨勢有久地蔵十王

補地蔵尊兩童子像

補同書云宅磨為成地蔵尊兩童子南都金剛院什物

兒文殊像

一幀

續群書類從第七百十八卷地藏天驗記

同書云。土佐吉光兒文殊杜アリ

補同

補同書云。春日光長兒文殊贊有

補同

補同書云。土佐行光兒文殊

智光曼陀羅 一鋪

畫工未詳。寧樂極樂院所傳此寺本在

元亨釋書二卷云。釋智光同州人共礼光止元興寺得

智藏三論之深旨礼逝。一夕夢至礼所嚴麗光潔。智

云。今見此界。廣博嚴飾。心眼不及。况又如來相好。豈

凡慮之所堪乎。於是彌陀便舉右手。智見掌中現小

淨土。嚴飾具足。智覺命工圖佛掌淨土。常自觀之。其

後吉祥而逝。其圖見在元興寺。世爭模寫

十訓抄四卷云。興福寺の智光賴光ハ一雙の貴き人

小く。一所小學問して有ける。賴光まへ小かく

きよけり。智光其生所をみむとねがひく。夢中

極らく小まゐり。賴光が先立く生まらる。有様

を見きり。さて其やうを繪小かきよるをハ。智光

がまんたらとて。世は傳へたり

躬行曰。元興寺智光曼陀羅。超昇寺清海曼荼羅

當麻寺の藕糸曼陀羅。俗こまを和州の三曼陀

羅といふとぞ

地藏縁起 二卷

補本朝畫圖品目云。地藏縁起一卷。畫巨勢光康詞

吉田兼好烏丸光廣卿鑒定識于卷末

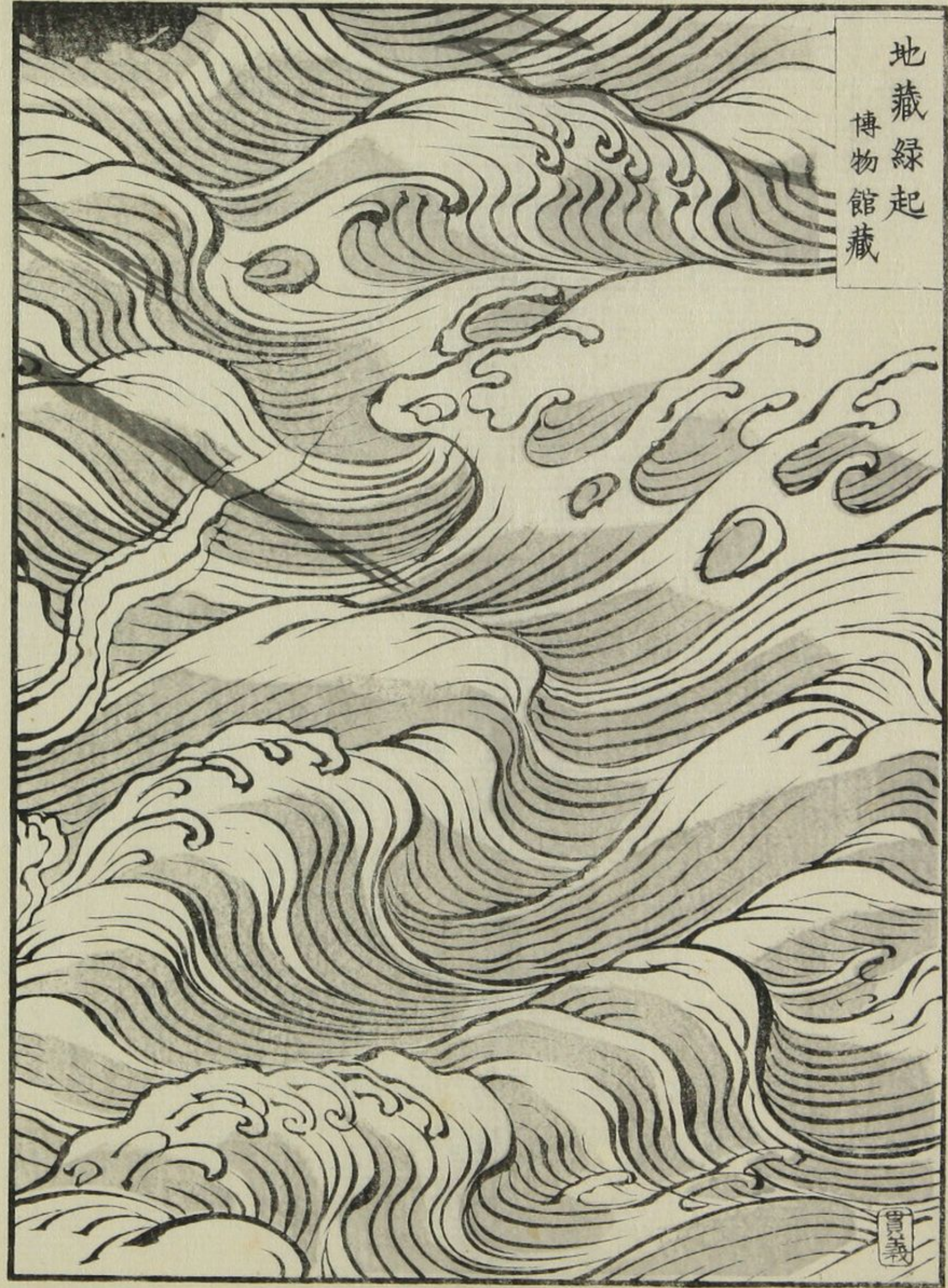
名畫拾彙云。巨勢光康畫地藏尊靈驗繪卷。其詞兼

續群書類從第七百十八卷地藏天驗記 三卷



海日南考古畫譜卷八

十



地藏縁起
博物館藏

海日南考古畫譜卷八

實義

好法師也

躬行按ふ。倭錦小光康を藏人永有の男一條帝の正曆中の人とし。父永有を。とるゝ後。ふ。後嵯峨帝の寛元中とせし。ハ。餘り。小轉倒志。り正曆もしは正應の誤ふもや。頭文抄ふを。光康を正中頃の人とせ。兼好ハ觀應元年二月十五日。於伊賀國田井莊寂。六十八と。園大曆ふ載。さり。さて此卷嘉永乙知の震火。ふ亡びぬときけり

補同

補古畫類聚目錄云。地藏縁起繪。有康筆

補古畫目錄云。地藏縁起繪。有康筆住吉家藏

補同

補真頼曰。巨勢有康ハ矢田地蔵縁起乃西工なり。矢田地蔵縁起。此の地藏縁起。同物。款別物。款考ふべし

補圖畫一覽下卷云。地藏縁起一本。江戸片山某藏

補同 一卷

補繪巨勢有家詞書作者慶運法師博物館藏

補本朝畫圖品目云。矢田地蔵縁起畫。巨勢有家

補真頼曰。矢田地蔵縁起ハ隆兼の畫。けけるもの。と有家の畫。けけるもの。と有康の畫。けけるもの。と三種ありや。ノ部。と掲く。就て見るべし

同 二卷

倭錦云。土佐隆兼地藏縁起詞。世尊寺殿

補真頼曰。隆兼の地藏縁起ハ京師矢田寺藏。小て矢田地蔵縁起ありや。ノ部。見合をべし

同 一卷

同書云。住吉慶恩地藏縁起詞。慈鎮和尚

世尊寺殿即行房卿也。行房卿修理大夫。右中將建武二。三。六。於越前金尊自殺。隆兼延慶中の人

新編地蔵尊縁起
地蔵尊古書讀本

同 一卷

今川範政書畫一筆

同 五卷

書畫筆者未詳

親長卿記文明六年三月廿七日云。入夜被召御前。被讀地蔵驗

記繪五卷男女祓候

同 一卷

書畫筆者未定長井十足藏弄

矢田寺地藏よりとじめく。所々の地藏の靈驗を

あつめ記せり

同 殘缺 一卷

倭錦云。巨勢有家地藏縁起詞慶運法師

補圖畫一覽下卷云。地藏縁起二卷一卷ハ今住吉

内記藏せり

補真頼曰。有康の地藏縁起殘缺數段博物館ハあり筆力道勁よく殊勝のものあり

補又曰。博物館所蔵の地藏縁起ハ片山五郎兵衛所蔵のものと同物ありと合をバ全ある

べしと高島千載ハハ

同 矢田寺縁起

名畫拾彙云。巨勢有康能畫。嘗繪矢田地蔵尊縁起

躬行按。元亨釋書滿米上人傳云。矢田寺本名

金剛山寺。在和州と記せり。洛陽の矢田寺ハ山

城名勝志。元綾小路南西洞院東。矢田町ハあり。今京極東三條北ハ遷をと。と迄ハあり

補同 二卷

地蔵菩薩畫譜卷八

補所藏者不詳

補摹本與書云。此二卷之畫意不詳。土佐光弘所畫。惜哉。言葉書滅と。源忠遙後附云云。又曰。地藏緣起。款予從石神窟主人借摹。于時文化十四丁丑年冬十月寫畢。文水

補真賴曰。予此摹本を藏す。與書小いへるが如く。詞書おけまバ地藏緣起とも定めがらまど外題小地藏緣起と記したまバ暫く此小掲

同

壬生寺
緣起

六卷

名畫拾彙云。蝮川親當帶刀丞親俊子。薙髮法名智蘊。自畫肖像。或山城州壬生寺緣起亦所畫云。展閱目六壬生寺條云。緣起繪詞。蝮川新右衛門筆。繪筆

者不知非工畫

同

星光寺
緣起

二卷

書畫筆者未詳。屋根葺地藏緣起攀舟内藤家藏

躬行按小。親長卿記六ヶ所地藏。壬生。西院。藏珠院。八田。星光寺。清和院と載せ。文明十四年七月廿四日。資益王記ハ。六地藏屋根葺星光寺云とあり。けハ此緣起小地藏。雇まきて。人家の屋根ふくよしを識せり

地蔵佛感應緣起

一卷

書畫筆者未詳

補真賴曰。摹本博物館小あり。地藏菩薩の支那の靈驗を集め記をハ。書畫共小殊勝の由あり

地蔵堂草紙繪詞卷八

地藏堂雙紙 一卷

類聚目錄云土佐光信筆倭錦同

補古畫目錄云地藏堂草紙繪光信筆

補元翰曰地藏縁起の異本歟

補地藏繪詞 一卷

補畫者不詳詞書後光嚴天皇宸翰

補真賴曰小巻小て白描の畫あり筆法そふて

みことなるもれあり恐らくハ書畫ともハ後

光嚴天皇の御まさびよやあらん

兒觀音縁起 一卷

補本朝畫圖品目云兒觀音縁起一卷住吉豊後法

橋詞為重卿

同

補真賴曰兒觀音縁起畫吉光筆詞書建朝卿のむしも今峰須賀後部ぬしのもとにあり

倭錦云土佐吉光兒觀音縁起詞經朝卿牛庵極

躬行按ふ從三位經朝卿建治二年二月二日六

十二歳薨せらる吉光ハ正安中の人ふまへ時

世ハあへり二條為重卿ハ至徳二年二月十五

日薨せ豊後法橋履歴詳ふりて兒觀音ハ南都

興福寺中菩提院小あり

補真賴曰兒觀音縁起一卷摹本博物館よあり

補持金剛寺縁起

補圖畫一覽下巻云畫圖品目云持金剛寺縁起

長恨歌繪 二卷

狩野山樂所畫

元翰曰絹本極彩色結構無比類尾張一商家藏

弄

地獄繪別本二卷あり

寂蓮建仁二年七月廿一日

補真頼曰子明治廿年東京府下東大久保梅松山大聖院川瀬長靜所蔵の地獄繪殘缺一巻を見添繪ハ七段詞書ハ五段ありて書画ともに見事あ添ものあり按るるに西工ハ光長詞書筆者ハ寂蓮と傳ふるものと同類歟云々ハ同物

千代能雙紙殘缺 一卷

倭錦云土佐隆相千代能圖切

地獄畫

好古小録云一卷畫光長詞寂蓮

補本朝畫圖品目云地獄草紙一卷畫光長詞寂蓮

補圖畫一覽下卷云畫圖品類云地獄草紙一卷画

光長詞寂蓮

補同 二卷

補畫光長詞寂蓮柏木貨一郎蔵

躬行曰丙寅夏地獄繪詞二卷書畫賈赤松琴二

自浪華携來畫光長詞寂蓮といへり書画とも

小絶妙也友人柏木政矩蔵弃せり一卷ハ沙門

の地獄一卷ハ星宿天部神虫等の疫鬼邪神を

の殘缺なほぞくおほゆ箱書ニ別所繪とあるハ詞書のはしりごとよまら別所あり云云とあるしたるよよまらる座

とりくらひ或ハうち殺屯圖五段ありその中
小鍾馗の鬼の眼を抉てぬく圖ありやまと繪
の鍾馗最めはらし又住吉家小同卷別圖の摹
本二卷あり其一卷ハや古寫本おて末ハ光
長筆と記せり此繪もと數卷ありしものみく
小録小載たりも即こまおらんさて柙庵隨筆
小繪の傳もして詞の失たりハ地獄畫とたし
ら小おしきまめく記しハ誤おていま去る
を二卷既小詞書あり
補真頼曰尚古圖録小此の畫卷中の一一段を掲
げたて就く見べし
補又曰地獄繪別本二卷のめれあり次下小掲

留南考古畫譜卷八

新編法苑珠林卷八
地持方古畫評卷八

補同 二卷

補所藏詳ふらび畫光長摸本住吉家小あり

補真頼曰此の二卷所謂了別本ふるものふく
二卷あまとも全本とも見とむ予明治十四年
博物館ふて摸本を見り一卷ハ詞書あり一卷
ハ詞書闕たり其巻端ふ記していそく地獄繪
主土佐廣純とあり

補同

補畫工便覽卷二云惠信僧都號源信最達書畫詠
和歌寛弘三年撰一策要訣於宇治平等院説法及
畫佛像亦云地獄變相初所令圖惠心也

補同

補同書卷三云常明法師住和州為畫家好画圖佛

補真頼曰元亨釋書
に慧心院源信と見
にたり惠信ハ惠心
の誤ふり

像及地獄形像亦處々縁起畫而寄附方存今
千早行幸圖

補古畫目錄云千早行幸京都土佐家繪本
類聚目錄載之

竹生島祭圖 一幅

補繪光信博物館藏
倭錦云土佐光信竹生島祭圖

補真頼曰祭礼の圖あり紙本よて彩色を施せ
と

中尊寺寂勝王經繪

倭錦云秀衡辨天堂最勝王經繪奥州平泉中尊寺
什物

補知足院本尊厨子の扉の繪

留甫考古畫譜卷八

長恨歌繪
皇極經世一

補本朝畫圖品目云東大寺知足院地藏堂扉繪巨勢金岡

補久成曰奈良知足院本尊厨子扉繪ハ修羅合戦の圖小て殊勝のもれ多り

補除目抄繪圖

補薩戒記云正長二年正月四日寫除目抄繪圖五日終日寫除目抄繪圖第一

補陣執筆圖

補山槐記云陣執筆圖卷

補奧書云右一帖畫圖共二日野大納言殿筆也以御深切御添筆給之條可為重寶者也資時御壺

井花押

長恨歌繪

西工便覽云宇多天
皇令好丹青圖繪長
恨歌勅紀貫之伊勢
令書其詞

補伊勢集云長恨歌の御屏風亭子院のかゝせ給ひくところとくよまさ給ひける帝の御手小て紅葉まよ色見画こつたふるものもれおもふ秋の涙あまけりかくもらりおはる涙のつゝまきく云云

こまハきされよかまぞく

志るへまろ雲乃船まよなかりさハ世をうみ中よたまうともましゐる雲の人ハき匠さぬもれあらハみをとなまよハなよあさまし月も日も七日のふりれ契をハ云云

源氏物語壺相云云此ころ明くれ御覽まろ長恨歌乃御繪亭子院のかゝせ給ひて伊勢貫之よまさ給へるやまとことのもも

補真頼曰長恨歌繪
と女帝皇帝繪と見
合まべし

曾甫考古畫譜卷八

補遺集卷八

更科日記云。世中ふ長恨歌といふぬを。物がと
る。お書てある所何ありと聞て。いよとくゆらし
けきと。之いひよりぬ。さるへきたふりをたつ
ねて。七月七日いひやる。契けむ昔のふふゆ
わし。さふあま乃川浪うちいほるかあ
拾遺集上中宮長恨歌の御屏風。伊勢 木ふも
おひも。ねもあらへほふし。らも浪路へ。とて
て君をさくらむ

補同

補玉海云。建久二年十一月五日。抑長恨歌繪相具
天有一紙之反古。披見之處。通憲法師自筆也。文章
可褒。義理悉顯。感歎之餘。寫留之。其狀云。唐玄宗皇
帝者。近世之賢主也。而慎其始。棄其終。雖有泰山之

封禪。不免蜀都之蒙塵。今引數家之唐書。唐曆。唐紀
楊妃内外傳。勘其行事。彰於畫圖。伏望後代聖帝明
王。披此圖。慎政教之得失。又有厭離穢土之志。必見
此繪。福貴不常。榮樂如夢。以之可知。欵以此圖。永施
入寶蓮華院。了于時平治元年十一月十五日。彌陀
利生之日也

此圖為悟君心。豫察信賴之乱。所畫彰也。當時之規
模。後代之美談者也。末代之才士。誰比信西哉。可褒
可感而已

補花鳥餘情卷一相壺長恨歌御画亭子長恨歌の
繪ハ亭子院乃御時か、を給へるよし。え侍れ
と其畫とて。まゑの世おつゝ。りたる事も侍ら
ぞ。志あるを。通憲法師法名西唐書唐曆楊妃外傳を

留補考言書卷八

といふ書をかんとへくあさしく繪ふかきし
をぞ今の世ふハ長恨歌乃繪とい申侍る是ハ平
治乃乱乃あるべき事をかゝて後白河院ハ御
心をはけ申さんため思ひくもどて侍るとぞ
あのごとく安祿山かやりふる信賴ふるまひ
た免しむくなかりける事也其繪ハ平治元年十
一月十五日に寶蓮華院ハ施入し侍るとて信西
一紙を書そへく置たるふし舊記ハのぞ侍るな
と

補 中将姫像 一幀

補 畫工不詳當麻寺藏摹本博物館ハあり

補 真頼曰合掌志たる半身の像あり

補 同 一幅

補 博物館藏

補 真頼曰此像髪をきらむしてまべらかりた
る坐像小く右の手ハ珠數をもて正天正慶長
頃の畫欵筆者未詳但絹本あり

補 珍海已講像

補 奈良東南院藏傳云自畫

補 菩提心集夾註卷上云禪那院先匠珍海已講者
博古知今故上德讓譽文經義緯故後學討迹三論
傳印世專歸其人矧於如研習遠師之四宗琢磨商
羯之因明乎遂以極月朔日為命辰矣珍々學海名
滿江湖涉獵諸典編集万殊一宗著筆二明貫珠維
摩落月麟戈耀軀紫宸雲起獅子受趺粲然好辭為
軌為模蕭焉妙思非有非無誰執鏡像錯入畫圖右

補真賴曰古畫譜卷八

像并贊在南京東南院寶庫像或稱海公之手畫贊失其作者而文也書也尤為古雅今摹倣原圖云云
補真賴曰疊の上小坐さる像よて珠數をもちものいふ躰ふり縮圖ハ菩提心集夾註の巻首にあり就く見るべし

補智者大師像 一幀

補所藏者不詳巨幅一幀摹本博物館ふあり

補真賴曰右手に獨鉗を持てる坐像ふり記して云天竺赤怨筆と有り

補定惠上人像

補集古十種肖像部云定惠上人像地福寺所藏鎌足公圖中所侍坐之像

補真賴曰かノ部小鎌足公定慧和尚不比等公

の像として掲げたるもの即是ふり見合をべし

補智證大師像

補百練鈔卷十三云嘉祿元年十二月十七日園城

寺大師御影為長史覺實僧正之沙汰奉渡御室戸本寺堂舎閉門戸斷絶恒例佛事了依天王寺別當

之訴也

補同

補畫工便覽卷二云岩倉文慶能畫祖師圖人物甚

活動而已系譜云文慶法印大和尚大雲寺別當美元年六月三日卒後冷泉帝至延宝元六百廿餘年

補中峯和尚像

補新編鎌倉志卷三明月院中峯自贊像一幅贊曰

白目補考古畫譜卷八

天目山不遠。遠山在眉睫。要識幻住真。畫圖難辨別。
春滿錢塘潮。秋湧西湖月。靚面不相瞞。也是眼中屑。
遠山華居士。寫幻影。請汚老幻。明本信筆。トアリ
補春村曰。贊のうちに幻住とあるハ中峯の庵
號也

通部

壺阪寺縁起

類聚目錄載之

土蜘蛛雙紙 一卷

補古畫目錄云。土蜘蛛草紙。光顯筆

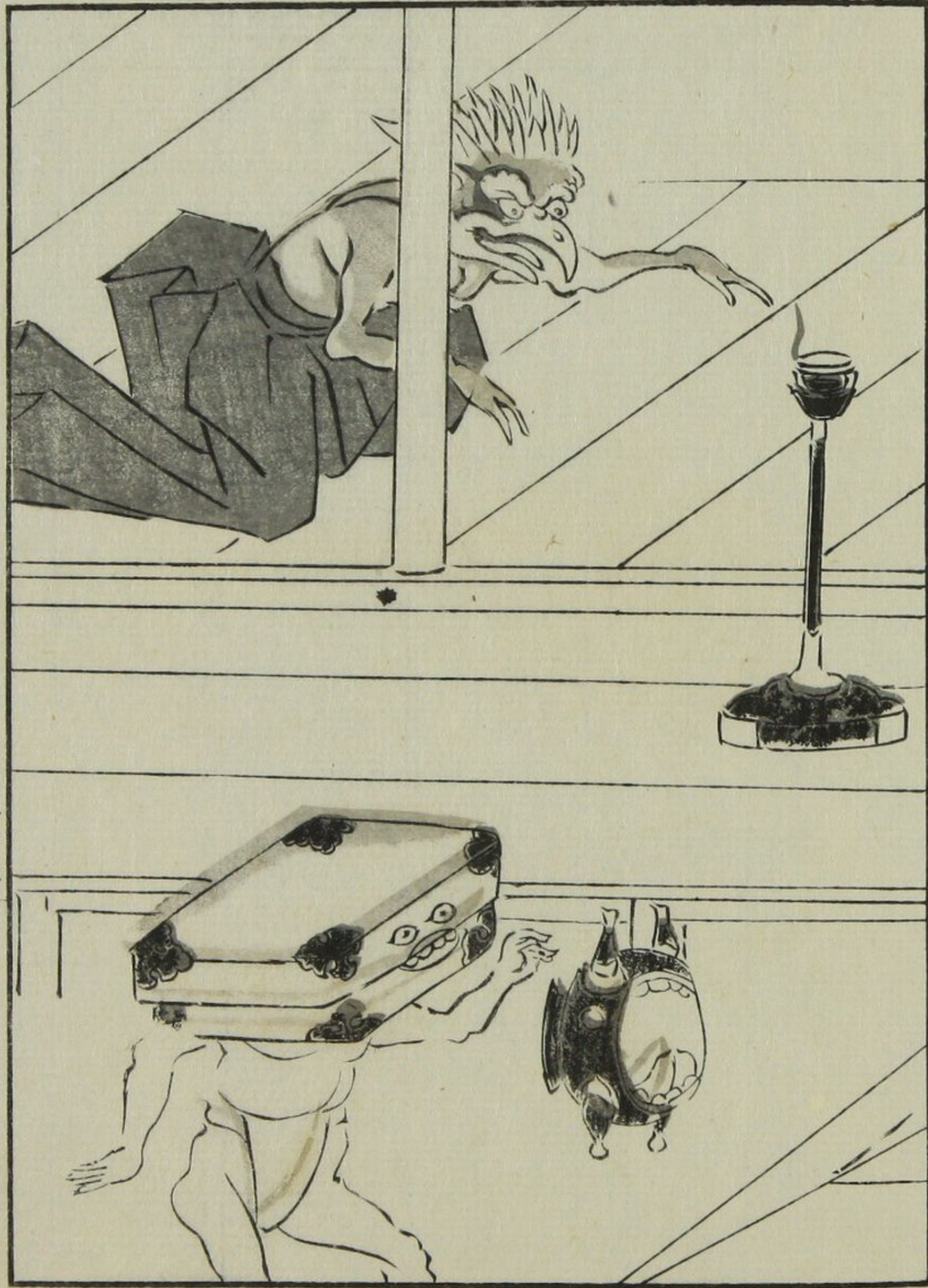
類聚目錄云。繪光顯筆

倭錦云。長隆土蜘蛛草紙

摹本卷後云。此圖ハ片桐家の所藏繪ハ土佐長隆

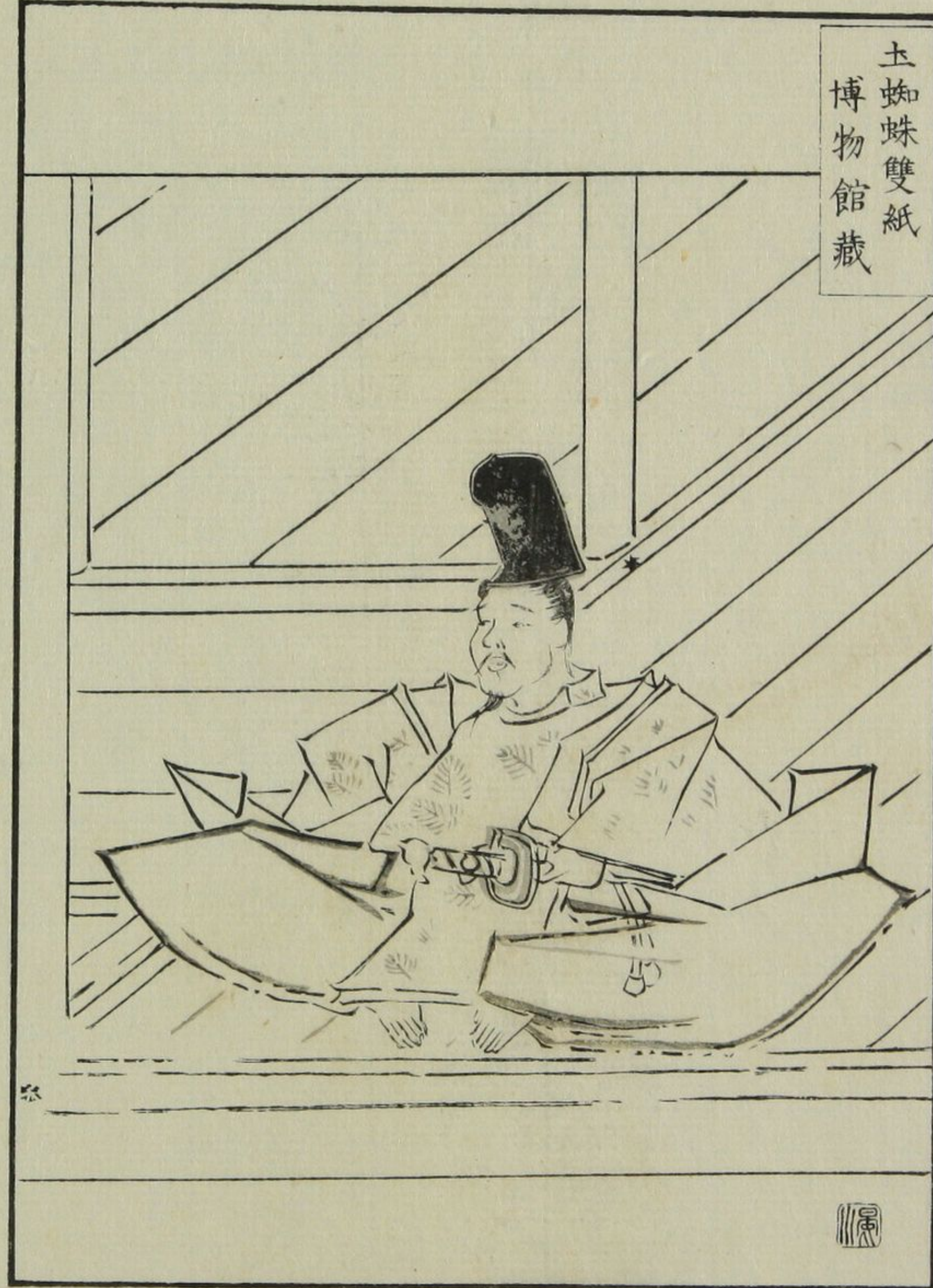
詞書ハ兼好法師也

補圖畫一覽下卷云。一本與書云。此圖ハ片桐家の
所藏繪ハ土佐長隆筆詞書ハ兼好法師筆也。と云
云。又云。右與書長隆筆と有之。如件也。寫を又摸を
故正筆一覽之上可極者也。長隆の筆意ハ無之



曾甫考古畫在自卷八

二十二



土蜘蛛雙紙
博物館藏

我祥法正清寺法
土蜘蛛古畫言卷八

風

補元幹曰。此卷子頼光朝臣土蜘蛛退治繪と名
つくべし原在明日。神代の上蜘蛛の事を画き
しもの二卷ありといへば未管見せび
躬行按ふ。長隆ハ文永弘安中乃人。兼好ハ觀應
元年六十八寂せり。年序後まゝ合かさし。是卷
ハ頼光朝臣土蜘蛛退治の畫詞あり。別ハ神代
土蜘蛛の事を畫きしもの二卷ありと。原在明
いへり蓋し未見之

補真頼曰。土蜘蛛草紙の繪ハ画風ハ光顯小似
たるものあり。もし光顯ならんハ。兼好法師
と時代かなふべし。長隆ハてハ書畫時代か
ハ。原本博物館あり就く見るべし

附喪神記 一名非情 草木成佛 二卷

好古小録云。付喪神記二卷詞云。陰陽雜記ふいそ
く。器物百年を経て。化して精靈を得てより。人の
心を誑る也。こまを付喪神と號せといへり。是ハ
よまろ。世俗毎年立春ふさきたちて。人家の具足
をもちひ出して。路次よまろつる事はべり。こまを
煤拂といふ。是則を、宅を以一年をらぬはくも
神の災難おほとふり。按よ泣不動縁起ハ付
喪神ヲ祭ル圖アリ。和歌ニ百年ニ一トセタラヌ
ツクモカミト云。即是ナリ

又云。非情草木成佛二卷。畫僧覺融。詞僧成賢。付喪
神ニ似テ。畫モ詞モ少ナシ
類聚目錄云。付藻神縁起繪
補古畫目錄云。付藻神縁起繪小卷
化物 摹本京都

御厨子所預高橋若狹守藏
補本朝畫圖品目云付喪神記二卷
古物語類字抄云是ハ伊勢物語のモトと云に一
ととたらぬはくもかえぬをこふらしおもろ
けみみゆといふ歌をもとふく作ををしをのふ
るべし

御厨子所預高橋若狹守藏
補本朝畫圖品目云付喪神記二卷
古物語類字抄云是ハ伊勢物語のモトと云に一
ととたらぬはくもかえぬをこふらしおもろ
けみみゆといふ歌をもとふく作ををしをのふ
るべし
躬行按ハ附喪神非情草木成佛ハ一物二名也
さるを小録ハ別本とさしハ誤あらん此繪光
信所畫の本ありと貫雄ハへまきさて増鏡の
序ハかの世繼ガむまごといひしはくも鬘
の物語も人のもてあつろひをさふもあまろ
ハみあまさまのやりある人ハこそ云云とみ
えさるハもとより別事ハく此畫卷ハあづ

からじ

補真頼曰予付喪神記の摹本を見ろに畫やう
光信乃風あるもれなり卷ハ小卷なりハノ部
非情草木成佛の條見合をべし

同 二卷

美濃國岐阜崇福寺藏 在長良川上 標題云東寺交輪院
傳來非情草木成佛
卷尾云左大史小槻宿禰書畫 名 又云真言宗東大
寺傳燈大法師任賢

筑摩祭繪 一卷

書畫筆者未詳
卷末云文龜元年八月廿九日神主紀忌寸朝臣是
長權神主管原朝臣實種下司筑摩周防守源忠胤

補春村日記忌寸の
忌寸不審

留貝浦考古畫譜卷八

城補考古書譜卷八

之公文朝妻中務大輔大撫諸貞 右一卷者南都
興福寺龍宮院藏所也。今改令寫得之者也。兼應二
癸卯正月申浣日

躬行按ふ此卷尾の連署紀忌寸朝臣源忠胤之
大撫等さらに解しかさく兼應の二年ハ癸巳
小して癸卯又あらび且龍宮院の名興福寺小
あろをさうひ姑く摹本に隨ひ録して疑を缺

月次物語繪

明月記貞永二年三月廿二日云日來撰出物語月次十二月不
入源氏并狹衣於歌者披群他事雖不可然源氏當
書云此所撰夜寢覺御津濱松心高東宮宣旨左右
袖濕朝倉御河爾閑魚取替波也末葉露海人薊藻

玉藻尔遊以十物語撰毎月五金吾清書訖又加一
見返之付繁茂進上云云以取交為興又蜻蛉日記
十所許撰出同送金吾許紫日記更級日記中宮大
所之自美明門院被撰其其外蜻蛉所殘款仍令書出
之近日此畫圖又世之經營歟

補真賴曰月次繪とハ月毎小古物語の中より
五所之らむ出して繪と詞とをかきしありさ
きハ月次繪ともいへるこれハをべての名な
る夜寢覺物語御津濱松物語心高き東宮宣旨
物語左右袖ぬらむ物語朝倉物語御河小さけ
る物語取らへむや物語末葉の露物語海人の
薊藻物語玉藻又何そぶ物語ハそれの部を
の部小掲げたに就く見らべし

留南考古書譜卷八

城... 古書... 詩...

同 二卷

同書又云此繪如聞者可為末代之珍欵與侍往年
幼少之時令參故齋院式子内親王之時所給之月次繪二卷
也持今度進入宮詞同彼御筆也每露殊勝珍重之
由上皇有仰事云云件繪被書十二人歌被充正月
敏行云二月清少納言齊信御參三月天曆藤四月方實
朝臣五月紫式部氣日六月業平朝臣秋七月院後冷八月
月道信朝九月和泉式部門十月馬内侍十一月少宗貞
乙女十二月北山景氣言二卷繪也表紙青紗軸
之水

躬行曰右以古物語類字抄所載抄出之但名畫
拾彙有式子内親王傳亦引明月記其文大同小
異以不贅

徒然草繪

類聚目錄載之

補倭錦云住吉具慶徒然草大色紙數有

貫雄曰具慶數種之内大色紙極彩色無雙のも
めあり

補真賴曰此の繪博物館に一枚あり

補同

補同書云住吉如慶徒然草數々

補同 一卷

補古畫目錄云徒然草繪一卷住吉家繪本

鶴雙紙 一卷

類聚目錄載之

倭錦云土佐光信鶴草子

此補考古畫譜卷八

補古畫目錄云鶴草紙繪光信

補鶴岡八幡宮寶物圖 一卷

補摹本博物館ふあり

補真賴曰政子の十二手筥の圖假面の圖あり

繫馬圖屏風 二帖

飛彈守惟久筆

貫雄曰此屏風安政五年柳營被_レ献_二禁中_一

同

倭錦云粟田口隆光繫馬畫屏風

補古畫目錄云繫馬圖十二枚粟田口法眼筆各一

枚畫馬摹本在板谷慶意家

同

越前守光重中務丞光弘左近將監光元等各筆

蹟

補同

補倭錦云土佐廣周繫馬屏風

追儼圖

畫圖品目載之

補本朝畫圖品目云追儼之圖

由甫考古畫譜卷八

增補考古畫譜卷八

豆部

補手長足長御障子

補古畫目錄云。手長足長障子。越前守行光

補土佐系圖云。行光云云。頭注云。畫手長脚長

補真賴曰。手長足長の御障子。荒海の御障子の
ことなり

天満宮自畫影

本朝畫史云。世稱菅神自畫像。筆勢不凡。威儀可仰
矣。其跡稀。蓋在于北野東向觀音。及洛東高臺寺。又
在於攝州上宮社。其真蹟無疑者也。

躬行曰。世稱菅公自畫像者。徃々在焉。皆非當時
之衣冠。且公在世謙虛。何猥畫自相。如此多乎。可
謂誣妄之極矣。

北補考古書言卷八

補同

補自畫北野東向觀音寺藏

補同

補自畫洛東高臺寺藏

補同

補自畫攝津國上宮社藏

補真頼曰右三條ハ引書本朝既小上といづ見合をべし

同神像 一幀

名畫拾彙云後奈良帝有御畫設色北野神像極清爽

同 一幀

展閱目錄普願寺條云天神影後陽成院宸翰

同

倭錦云義政公天神多ク畫

同 一幀

刑部大輔吉光所畫今在信州高遠城中一原天海僧正之藏

同 一幀

補菅公像宅磨榮賀所畫素眼法師贊古筆了悦藏
倭錦云託磨榮賀管神贊素眼法師

補真頼曰摹本博物館小あり畫上小置色紙三枚あり贊辭あり素眼孔筆ふり舊ハ土方縫殿助所藏ありしが後古筆了悦所藏とふる惜まらふ祝融の災小る、きり

補同 一幅

補巨勢有家所畫贊世尊寺行尹卿古筆了悦所藏

百補考古書言卷八

補真賴曰此の像加藤嘉庸の蔵とふきり殊勝
死ものあり

補同 一幅

補同 一幅
補飛彈守惟久所畫板搗將順所蔵

補同 一幅
補土佐光周所畫賛一條禪閣兼良公板橋將順所蔵

補同 一幅

補土佐光輔所畫賛冷泉持為卿池田江村所蔵
補了悦曰立像

補同 一幅
補土佐光輔所畫田代綱部所蔵

補同

補畫工便覽卷三云兼好法師大職冠苗裔卜部兼
顯之三男博覽而無所不窺能綴和語巧作和歌時
頓阿慶運淨辨兼好號四天王常好圖繪天神像

補同

補同書云真成京城人父少納言隆仲學畫天神像
束帶而令坐于圓座雖其功少筆風有器趣

補同

補同書卷四云靈影不知何人頗明兆筆風學有功
常好而圖繪天神像世多以細字為靈影方印

補同

補同書云月舟但州美含郡人住于圓通寺長于手
跡及得圖繪畫天神雖少功有器趣矣常近州以湖
水作書故能知湖水色云云

補同

補同

補同書卷五云。雲翁不知何人。以本筆作天神像。
 補翰林葫蘆集卷四部真贊云。天神袖挿紅梅。當辦香
 朝歸北野。夜餘抗寬心一段。九州致文武。炉中雪沃
 湯。寶祐院頭尼真盛。首座親繪北野神君龍淵
 神遊遺容。以賜余徒。禪侍者。蓋其心將俾參詩。參神
 以禪以得神助者也。可敬矣。米芾畫史云。尚書李公
 擇之。妹南昌縣君。能臨松竹木石等畫。見本即為之
 卒難辨。山谷題其墨竹曰。人間俗氣一。貞無健婦果
 勝大丈夫。今之所繪者。易朝服。携梅花。其深閨靜几
 試筆墨之間。不著一点俗氣者。與姨母墨竹。併按焉
 所以余作詩以贊焉者。在茲矣。

補同

補春村曰。尼公畫事。又瓊華集小見也。

補天聽集云。天文四年八月七日。廬山寺靈寶種々
 帥大納言持參也。天神自筆之影。又慈惠大師自筆
 影。同御念珠法然念珠良忍上人念珠。廣慧和尚廬山
 寺之開後醍醐院之御寄倚ト云々

補同

一幅

補新編鎌倉志卷二荏柄天神寶天神自畫像壹
 幅。大日記ニ長亨元年荏柄天神駿河ヨリ還座自
 筆ノ畫像ナリトアリ是ナラン

補真賴曰。集古十種部肖像小鎌倉荏柄社藏の菅
 公の像三つあり。束帶の坐像ふりこの像の中
 小大日記ニ載たる像ある小や

補同
補集古十種
部肖像
云菅原道真公像筑前國太宰府
社司横尾某藏
補真賴曰束帶ふく笏しやくをもち帶釵おびのしんの坐像あり
摹本博物館ふあり
補同
補同書云菅原道真公像紀伊國高野山寶積院藏
補真賴曰束帶ふくの坐像あり
補同
補同書云菅原道真公像鎌倉荏柄社藏
補真賴曰上條かみに載せたる菅公の像新編鎌倉
志を引て證あるものに見合あはべし
補同

補同

補集古十種

補同

補同書云菅原道真公像紀伊國高野山寶積院藏

補同

補同書云菅原道真公像鎌倉荏柄社藏

補同

補真賴曰束帶ふくの坐像あり

補同

補同書云菅原道真公像鎌倉荏柄社藏

補同

補真賴曰こきも上條かみの圖とおあしめて束帶
の立像あり

補同

補同書云菅原道真公像藏不詳 田安御家臣荒
井千春所畫

補同

補真賴曰此の圖古躰かみに帶釵おびのしんに榻たたふかゝ
る給へる世に田安家の圖と稱なは

補同

補倭錦云武田道遥軒菅神影御袍ノ中ニ名書アリ

補同
補同書云。土佐經隆管神

補同

補同書云。信實天滿宮御影住之江藏

補同

補同書云。土佐行廣天神

補同

補同書云。土佐寂濟天神

補同

補同書云。土佐光元天神

補同

補古畫目錄云。管公束帶像絹本傳云。光信筆高野

補同

山清淨心院藏

補同

補管公御影秋月筆博物館所藏

補

補真賴曰。紙本豎束帶坐像。なま梅松の二樹あり

補同

補繪土佐將監口口絹本狩野晴川院藏摹本博物館

館

補真賴曰。笏をもちて坐像あり。前小獅子狛犬

補

補同 一幀

補

補成島邦之丞家來某藏御自畫摹本博物館あり

補真頼曰頭巾を被り直衣を着て梅樹小手を
かけさる坐像なり畫上に白馬を畫りけり置
色紙繪の上下にあてて天神利益の事を記と
し筆者尊圓親王と有り

補同 一幀
補麴町平河天神社藏傳云御自畫絹本摹本博物
館に有り

補同 一幅
補真頼曰東帶ふて笏をもち圓座の上小坐せ
る像あり

補同 一幅

補東寺寶翰古器目錄云寛信法務御筆天満宮神
影

同雲中影

倭錦云芝琳賢雲中天神詞政家公

春村曰こゝに政家とあり何人ぞもし近
衛關白政家公あらんよ乎正二年六月十九
日の薨去六十ふまば琳賢より時代をるかみ
ぬらし

躬行曰琳賢ハ東大寺繪所日記よりに時代
政家公とさはりれたるひもあらじ琳賢
の事ハふは東大寺大佛殿縁起の處ヨいふべ
し

同渡宋影

倭錦云土佐光輔渡宋天神贊尊應准后
躬行曰菅神渡宋の事ハ人見友元が東見記ハ
渡唐天神ノ事聖一國師博多ニ居住ス後國師

光輔廣周男文明中
の人尊應准后文明
三年任座主
雪舟渡宋像贊只為
愛梅堪畫圖

補真頼曰頭巾を被り直衣を着て梅樹小手を
かけさる坐像なり畫上に白馬を畫りけり置
色紙繪の上下にあてて天神利益の事を記と
し筆者尊圓親王と有り

徑山開說授衣孟袖
中携一杖去恐是
江南亦所無 村巷
丞相風流似伯顏江
南暮雪柳梅遠遊
想可為花企未必尋
僧上徑山 萬里叟

地神考古畫譜卷八

ノ居住ノ跡ニテ石ヲ地ヨリ掘出シタルニ聖
一ト天神トノ物語書ツケテアリ天神ノ云和
尚ニ佛法ヲ傳授セント云聖一ノ云愚僧ハ徑
山寺ニテ法ヲキ、我師ハ徑山寺ニアリ公亦
就我師可聞法ト云天神終ニ渡唐シテ無準ニ
法ヲ受テ僧ノ衣裳ヲ着テ梅花ヲ携來テ聖一
ニ相見テ無準ニ法ヲウケタル由ヲ語ル事自
悦フ是ヲ書記セリ東福ノ愚極モ如此記セリ
又惟肖ノ天神ノ贊云我モ此事不審ナレド絶
海已ニ贊ノ置レタレハ任其讚之とみ正たる
起原小テ長親卿の兩聖記管神入宋授衣記
また梅松録小モ此事を載たきと其もと夢想
ニ出ていたくうきたることふまゝし

天壽國曼陀羅

一鋪

聖德法皇帝說云右在法隆寺繡帳二張縫着龜脊上
其銘文云斯歸斯麻宮治天下天皇云云歲在辛巳
十二月廿日癸酉日入孔部間人母公崩明年二月
廿二日夜半太子崩于時多至波奈大女郎悲哀歎
息曰畏^{カシキ}天皇前曰云云我大王所告世間虛假唯佛
是真玩味其法謂我大王應生於天壽國之中而彼
國之形眼所^{カシキ}看^{カシキ}怖因^{カシキ}圖像欲^{カシキ}觀^{カシキ}大王往生之狀天
皇聞之懷然告曰有一我子所^{カシキ}啓^{カシキ}誠以為然勅諸采
女等造繡帳二張畫者東漢末賢高麗加西溢又漢
奴加己利^{カシキ}令者^{カシキ}掠^{カシキ}部^{カシキ}秦^{カシキ}久^{カシキ}麻^{カシキ}
右繡帳推古御代所製片々破裂僅存數片于本寺
天滿宮緣起曼陀羅 北野杜裁 一鋪

通目南考古畫譜卷八

北野縁起

北野縁起曼陀羅刑部大輔光信筆本社藏

天滿宮縁起北野社藏八卷

畫信實朝臣詞後京極攝政北野縁起八卷畫稿一

卷本社所藏但畫稿一册牙貼於本卷裡面今集為一卷

倭錦云信實北野神寶天神縁起詞四筆

第一卷跋云北野聖廟縁起不慮紛失不知其所在

空送歲月已久于爰日代照世索求于四方得古編

縁起八軸於泉南大寺之大藏中雖然欲償之不容

易故謁縣令石田木作尹請遂鶴望縣令感照世志

深切而文祿五稔秋遂以得令終素願不勝抃躍抱

以奉備寶前也可謂合浦珠去復還矣嗚呼是亦非

神慮威德之盛乎于時慶長第四曆己亥夷則七日

北野寺務無品親王記之

第二卷已下記云慶長第四己亥年七夕覺圓親王書之

貫雄曰詞書後京極殿と傳へたまども光明峯

寺殿あらんと或人のへて此繪信實朝臣老後

の筆にして為繼卿の合作あるべくおぼゆ

躬行曰此詞書一筆ふあらむおぼゆる猶俟後

考

補真頼曰信實朝臣乃畫りける北野縁起ハ卷

物のたけ壹尺七寸とありてありとあり也

乃なる

同北野社藏三卷

畫刑部大輔光信詞三條西實隆公外題後柏原帝

宸翰本社藏

曾見南考古畫譜卷八

補本朝畫圖品目云北野天満宮縁起四卷
卷尾記云右詞依松梅院梅壽丸所望滌秀筆了權
大納言實隆繪師刑部大輔光信朝臣

補真賴曰北野社藏の光信の北野縁起ハ上中
下三卷也予明治十七年五月繪畫共進會小
見其真書小云く

聖廟縁起上中下繪畫所預從四位下行刑部
大輔藤原朝臣光信圖之詞正二位行權大納
言兼侍從藤原朝臣實隆依松梅院梅壽丸命
書之所謂舊本紛失之間抽懇丹之至誠施後
素之新様而今 叡覽之次忝揮 宸筆銘于
外題盖萬代之至寶應靈神之照鑑者乎時文
龜癸亥曆二月十八日記之 花押

同

北野社藏 殘缺 一卷

補古畫目錄云北野天神縁起越前守行光筆殘闕
一卷在土佐家按北野縁起一卷闕疑ハ此卷ナラ

畫越前守行光詞世尊寺行忠卿白描殘缺本社藏

類聚目錄云北野縁起繪行光倭之錦

展閱目錄云行光筆北野縁起殘缺土佐土佐

土佐系圖云行光越前畫天満宮縁起真筆一卷至

高在

此傳曾展玩集殘闕為一卷古色可掬

春村曰行光筆と傳へたり三卷の摹本あり行
光ふりもぬりげめて頗可愛え乃ち是を
缺本と見て詞もまよ逸したり

補真賴曰北野縁起
のことハきり部
も掲げたり見合
べし
補又曰柏木政矩北
野縁起の殘缺一
片を藏せり恐らくハ
行光の畫のけり殘
缺ちらん歟

躬行曰今本社に傳ふる所二卷あり。土佐家等に藏するものハ、もやく本社を逸しぬる卷子ありべし。

同 殘缺一卷

補古畫目錄云、天滿宮傳從五位下越前守成隆清涼殿霹靂圖在土佐家。

國朝書目云、北野天滿宮緣起畫所預伊豫守隆成殘缺。

土佐系圖云、隆成伊豫守畫北野緣起乙未十一月展玩、清涼殿霹靂圖一枚、畫力極精、圖中有一二妙筆。

躬行曰、本社藏殘缺一卷、畫行光色着詞筆者不知、とあるものあり、行光二卷の本と同じからむ。

是即隆成筆歟、又云伊豫守隆成ハ、土佐系圖ハ

ハ、越前守光顯の子とせり。然るを本朝畫史隆親の傳に、主殿頭隆能子、晩年任中務少輔、始名隆成と記し、ハ、何によきるふら怪しむべし。

同 北野社藏 三卷

畫土佐將監光起、詞當時公卿合作、本社藏。

補古畫目錄云、北野天神新緣起繪所預光起筆、詞

寄合書京北野社什物。

同 北野社藏 二卷

畫板屋挂意、詞當時諸侯合作、號為天滿宮略傳平松

越中守定 信勳進 本社藏

躬行曰、好古小録云、北野天滿宮繪詞四卷、隆成

及行光、光信、各此ヲ寫ス、今皆傳ハラス、隆成ノ

粉本終一葉、行光ノ真蹟三葉、光信摸本一卷ヲ

見ルノ三かく記したきど方今本社小存也
所信實朝臣根本光信乃全卷行光の殘缺二卷
筆者未詳残一卷新縁起兩種もべく六種を蔵
せり

同

社在柄

三卷

新編鎌倉志二卷云在柄天神縁起三卷畫ハ土佐筆
詞書ハ藤原行能也當社ノ縁起ニテハナシ菅丞
相一代ノ事蹟ヲ書リ

好古小録云畫行長詞行尹卿余曾テ摸本ヲ見ル
原本ハ他所ノ珍藏トナリテ本社ニハ摹本モナ
シ

倭錦云春日行長在柄天神縁起詞行能卿
卷後云天満天神利生利物薩埵之應現權化之方

便繹入幽玄難覩縷唯舊談之所世論之不忘摸之
丹青彰其奇特勒成一部相并三軸聊依有中丹之
緒願所願所念此後素之畫功也一奉納寶殿之後
再莫出瑞籬之外信心之至廟鑒定照感應之餘宿
望盡成于時寶曆元應曆維之年玄律大呂朔之朝
而已
右近將監行長

春村曰此跋文寶曆ハ祝稱ふり屠維ハ巳の異
名ふきバ元應元年といふ義也玄律大呂八十
二月の異名朔之朝而已ハ文の拙き小やまこ
ハ丙巳の誤りさきど長曆ふ不合考ふべし
上卷ハ菅公の御傳中卷ハ公の崇なるとて天
災あましこと贈官位の事下卷ハ北野社建立
の時ふり靈驗奇瑞此事を記す文中ハ建長の

今といふ語あり
躬行按ふ。從三位行能卿ハ。仁治元年十一月廿
六日六十二歳薨む。行長ハ元應の年號。此跋文
小歴然たまきバ。行能卿ハいたく後まゝ。年代
合がたし。小録に載し行尹卿ハ。貞和六年正月
十四日薨ぜられたまきバ。時代ハあひたらま
し。但行長を建仁中の人といふ説もあきど。此
元應の證文あきバ。誤るとまべし。此縁起今ハ
鎌倉八幡宮別當所ハあまると。貫雄ハへりき
補真頼曰。予荏柄天神縁起原本二卷又寶曆年
間乃寫一卷を前田利嗣家ハく見る書ハ為重
卿なりと牛庵の極め何り畫ハ光茂ふると狩
野安信の極めあま

同

又曰。荏柄天神縁起摹本三卷博物館ハあり
太宰府社藏 十二鋪

柳庵隨筆云。太宰府縁起十二幅の懸物あり。北野
荏柄と大小異あり

同

道明寺藏 三卷

畫圖品目云。道明寺天神縁起。書畫三好丹後守房
長。卷後記云。維時慶長己酉十又四。孟夏上旬。誓田
之領主源朝臣三好丹後守房長傳兼。筑之前州太
宰府天満宮神廟。有左遷之縁起三卷。書畫寫之。謹
敬奉寄。附河州志紀郡道明寺大威徳天神之社頭
為專祈國土無為。家内安全。武運彌久。子孫益榮。至
祝至禱。無災無難。次冀火盜潜消。財産豊饒者必矣
慶長十四年四月廿五日源朝臣三好丹後守房長

北條氏家系圖

署押

同 緣起新

三卷

同書云。道明寺繪詞。畫上卷從三位延致。日號大東春社神宮中卷六條中納言有藤卿。下卷大藏少輔光芳。詞上卷一乘院宮尊昭親王。烏丸大納言光榮卿。高辻宰相總長卿。中卷東原式部權大輔長義卿。東坊城侍從長誠。冷泉中納言為久卿。高辻侍從冬長。壬生中將俊平朝臣。芝山兵部大輔季憲朝臣。風早三位實積卿。唐橋大學頭在廡卿。下卷五條大藏卿為範卿。六條中納言有藤卿。東原侍從適長。唐橋侍從在秀。庭田中納言重孝卿。青蓮院宮尊祐親王。外題寶鏡寺宮。理豐女王。躬行曰。道明寺ハ河内國志紀郡道明寺村小

王。菅公の叔母格壽尼公。むろし。此居所たてし。故。尼僧住持せり。然る。小明治維新のまじめ。寺を山下小遷して。こまを別ち。社を土師社と改め。祠官をおけ。土師ハ此邊の舊名にして。當時菅家の領所なりしといへり。

同 佐太 社藏 三卷

倭錦云。芝觀深河内佐太神庫天神緣起詞六波羅西坊阿闍梨。每卷末記云。譽田遠江沙彌金寶。署押又匣裡書云。河内國十七ヶ所内。大庭庄。筆者六波羅西坊少納言。奈良觀深。芝法眼之筆。文安三年丙十一月十五日。三島太郎佐衛門入道願主。本迄妙。躬行曰。佐太菅社。信濃守永井尚政所創立也。當

曾補考古蹟

時此地係其采地云。まゝ爰に河内國十七ヶ所
とあるハ、曾て聞く。尚政深く管神を仰く。故小
當國南邊尚政領内の神社。帳内の舊社といへ
ども。悉く管神を祀まり。其數十社不及べ
をいふあらむ。

同 松ヶ崎社蔵 六卷

倭錦云。筆者不定。周防國松ヶ崎天満宮天神縁起
六卷

跋文云。此御繪有拜見志類者。企參詣。於當社拜殿
可令開之。雖為推門勢家命。更不可出社壇。若令違
犯此旨輩者。可罷蒙大政威德。天之神罰。於拜見之
仁身也。仍誓文如件。應長元年辛未潤六月日。御膳
所大法師隆真。官司大法師實尊。社務法眼和尚位

道澄 貫雄曰。此卷畫體を詳小せり。に。刑部大輔吉光
の筆跡。ふるべくおぼゆ。

同 殘缺 倭錦云。土佐邦隆天神縁起殘缺

同 類聚目錄云。天満宮縁起繪詞光明峯寺關白伊豆山蔵

補古畫目錄云。天満宮縁起繪畫不詳詞書關白道
家公筆伊豆山権現蔵或云荏柄天神縁起是也。ト
云。

補同 四卷 本朝畫圖品目云。平河天神縁起四卷

補同 三卷

行光延文頃の人地
 傳光嚴院正平十九
 前日
 尊道親王後伏見帝
 子文和四年任座主
 從三位行尹卿貞和
 六正十四薨終尹卿

增補考古書譜卷八

補町田久成藏舊大和國菅原寺藏

補畫土佐光信詞書筆者

補貫義曰上下卷ハ光信中卷ハ光信光久合作
 のも乃ふり巻標の繪も亦光信あり

天狗雙紙 五卷

倭錦云土佐行光天狗草子五卷七ヶ寺畫詞東大
 寺興福寺卷二光嚴院宸筆同叡山醍醐高野東寺卷二
 尊道親王為明書繼尊純親王同三井寺卷一行尹

補真賴曰天狗草子のうち延曆寺一卷東寺醍
 醐高野の一卷をべて二卷原本博物館ふあり
 其奥書ふ土佐將監光信の畫く所と狩野探幽
 法印の鑑定書ありあうりに又畠山牛庵の寛
 文八年の鑑定書ありて延曆寺此詞書ハ青蓮

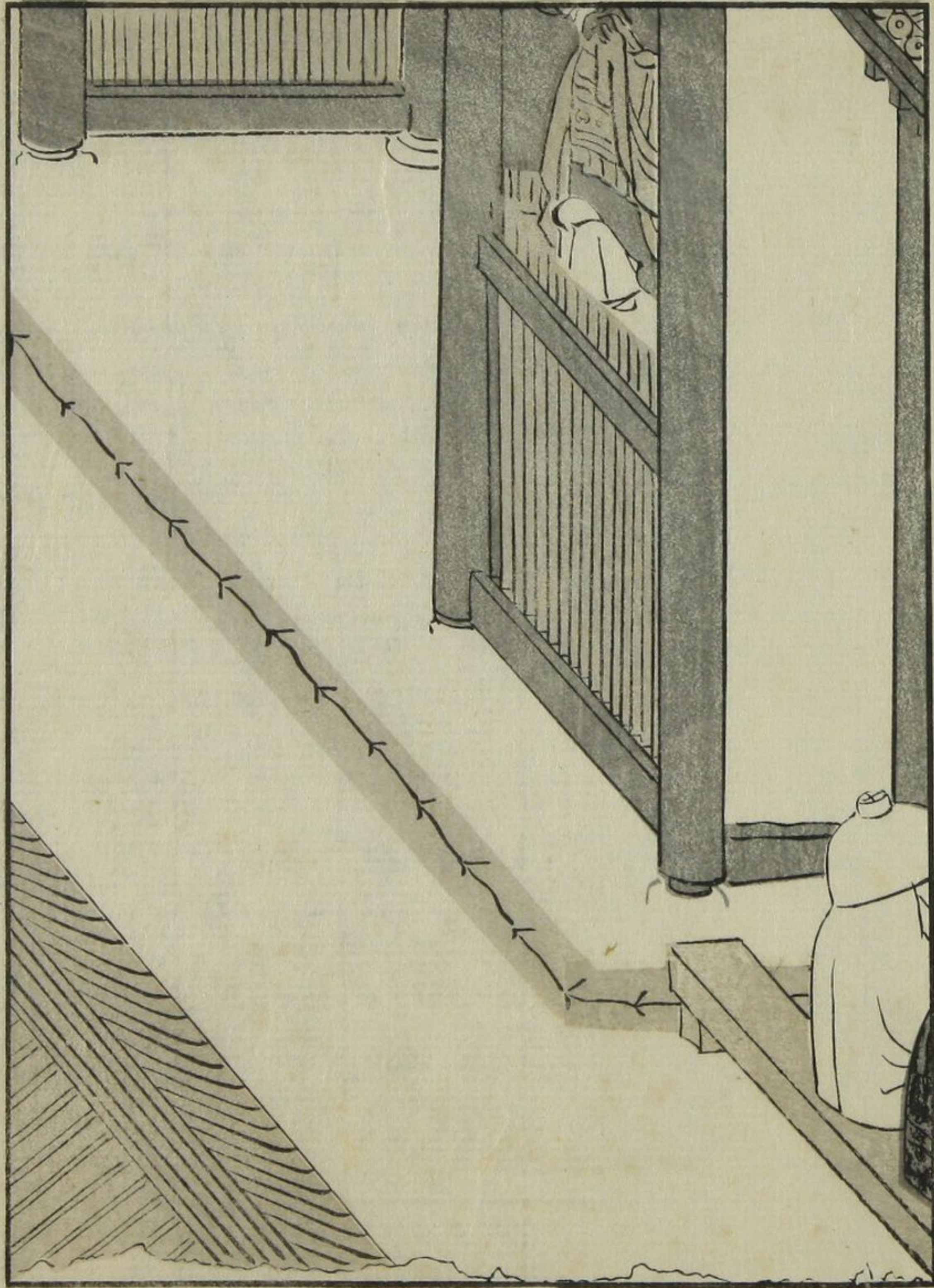
院尊道法親王とし東寺の詞書ハ壬生二品家
 隆卿とせり詞書筆者と畫工と時代合はば猶
 よく考べし

補又曰前ふあふる二卷の外ハ三井寺此卷一
 卷松平隱岐守家藏り其摹本博物館ふあ
 り摹本ふ記して云ハく詞世尊寺行尹卿牛卷

繪越前守行光と見延たて
 補又曰瑤囊抄卷八天狗名目漢書ノ中ニハ天

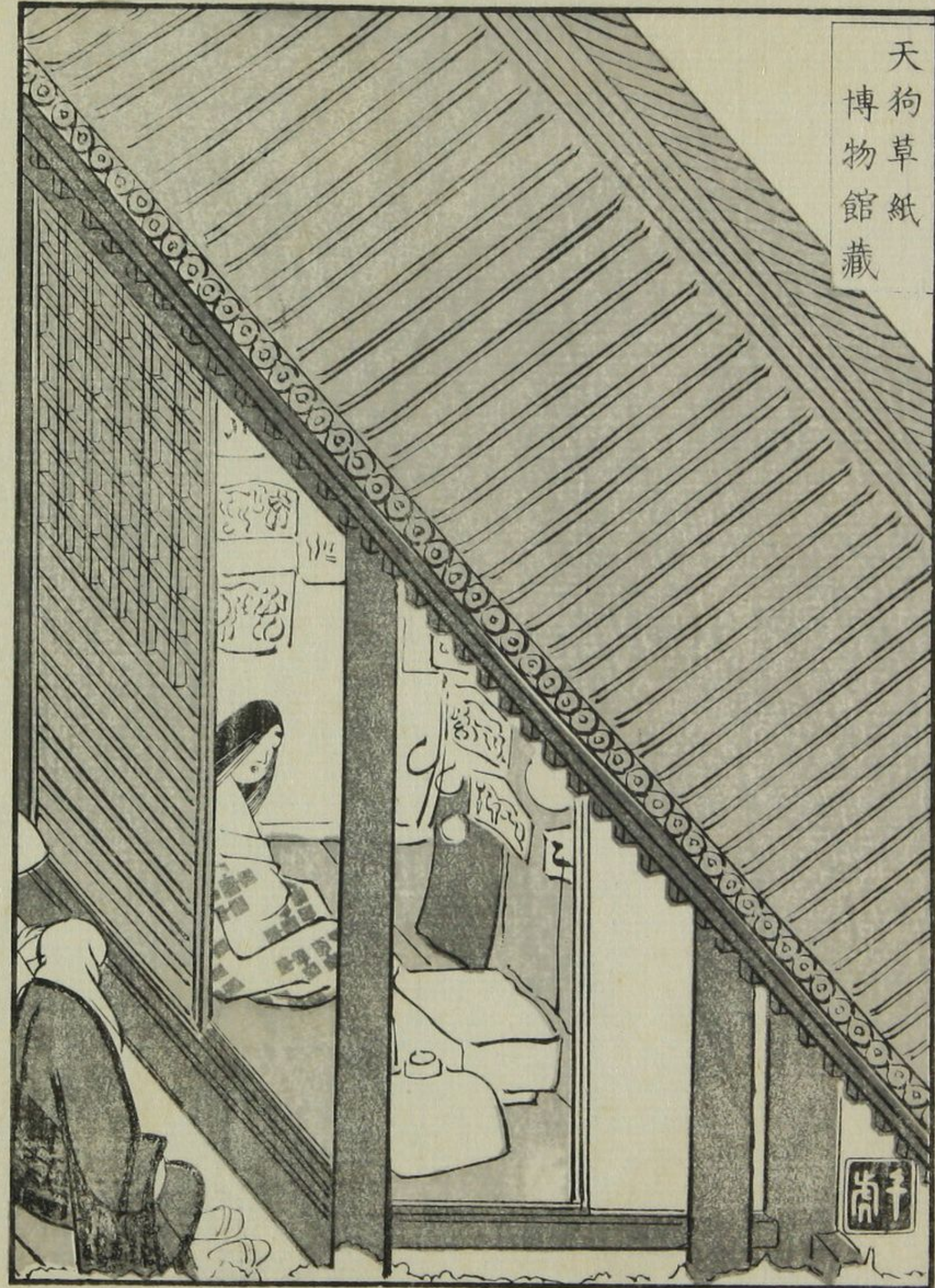
狗ハ流星也則太白星ト云ヘリ但諸道ノ長者
 諸宗ノ行者依慢心成天狗ト云ハ其名同ジケ
 レ共種類各別ナル歟其モ定テ底ハ通ヒ侍ラ
 ン砂石集ニ不見及ト申サル天狗ハ此事ニ
 ヤ其モ八坂ノ寂仙上人遍融七天狗ノ繪ト云

增補考古書譜卷八



通補考古書經卷八

四十四



天狗草紙
博物館藏

增補考古書經卷八

南

大夫法眼永春應永
項の人清涼寺融通
内念佛畫師之
為重卿至徳二年二
月十五日薨

同

事書レタレバ定テ由緒侍覽云云と見返さる
七天狗繪ハかあらびふの天狗草紙ならむ

一卷

倭錦云土佐永春天狗草子詞二條為重卿

補本朝畫圖品目云天狗雙紙

補古畫目錄云天狗草子一卷詞書二條為重卿青

山庫中有摹本與書云天狗草子一卷者二條家為

重卿真翰也與不足可書繼由依所望主人在之加

愚毫畢寛文五乙巳夷則申日冷泉左中將藤原為

清為

補真賴曰此の天狗草紙一卷ハ是害房の事を
かけるおきバ是害房繪詞ともいへりせノ部
見合をべし

補同

二卷

補幕府藏畫工不詳詞書光嚴院宸筆與書云右繪
之詞光嚴院之宸筆無疑貽者也權大納言藤原光
廣謹記之花押

補真賴曰二卷のうち一卷ハ東大寺一卷ハ興
福寺摹本二卷博物館にあり

補調度歌合

補圖畫一覽下卷云群書類從五百四雜五十九小
收む十番ふり序云やよひの末つゝ高野山の
御幸として世中ひゞきしこと云云與書云右一卷
者三條西實隆入道道遥院真蹟也臨于此卷書寫
畢公賴

補真賴曰調度歌合ハいまど繪を見を

補朝觀行幸繪

補東鑑廿八云、寛喜四年正月四日、後鳥羽院朝觀行幸、繪自京都被進之將軍家、今日有御覽陰陽權助晴賢朝臣依仰讀彼詞云云

補元幹曰、年中行事に具るもの詞なし、當時勅あてて新寫せしもの歟

補同

補本朝畫圖品目云、朝觀行幸筆者不知

補真賴曰、東鑑小後鳥羽院朝觀行幸繪といふものあり、此の繪ハ此の圖を寫したるもの歟、又ハ別圖あり小や

補てこくま

二卷

補圖畫一覽下卷云、畫者不詳小兒の戲きの如き

畫あり人形至て小キ者也、詞書モ不知上卷卷首と卷尾缺失、下卷ノ終ニ永祿九年とあり、五月吉日こそきをかくと見たり

補又同書云、品類小世熊圖一卷とあり、もこそき歟

補真賴曰、てこくま物語にてこくまといふものやまらぬ、れ姫君の身あり、まふたつものかこぞなり

補天狗の内裏

補羈旅漫録卷一云、名古屋ふて見たるし繪卷物云云、天狗内裏繪卷物是ハ先年名古屋の道具屋にあてし由いづき、れ旅人もとめ行けん次の日問ふ小賣たりとて名古屋の人をしみあへり

殿門圖

四卷

新行曰春村見人所
十七の本ハ自ラ別
本あり

類聚目録云裏松固禪入道撰

春村曰余が見る所の本七卷あり宮殿圖と題
せり古畫卷中此殿門を抄出せしものあり

典藥寮明堂圖 一卷

姓氏錄左京諸蕃云和藥使主出自吳國主淵孫智也天
國排開廣庭天皇謚欽明御代隨使大伴佐尼比古
持内外典藥書明堂圖等百六十四卷佛像一軀伎
樂調度一具等入朝男善那使主天萬豐日天皇謚
孝德御世依獻牛乳賜姓和藥使主奉度本方書一
百三十卷明堂圖一卷藥臼一及伎樂一具今在大
寺也

古事談六卷云施藥院領九條古所明道圖ノ有ル
ヲ見ル人必目ヲ病ノヨシハ雅忠申置レ云云

新行曰大寺者則大
官大寺後号大安寺
移大和添上郡金廢

續古事談一卷云典藥寮明堂圖ハ靈物也雅康寮ノ
御時本寮破レテ弄オキテヨロヅノ人ニケリカ
ヤウノ寶物今ハ一モノコル物ナシ

補同書卷五諸道云富家殿灸治シ給ヒケルニ重康
申サク日神モ、ニアリヤキ給ベカラズコノカ
ニ忠康申サク内モ、外モ、コトナリ醫書明堂

圖ニ見エタリ
轉害會屏風

好古小録云轉害會圖六曲屏一座畫光興未知是
非

國朝書目云文明十四年轉害會圖一卷轉害會六
曲屏風

名畫拾彙云光興相傳土佐家祖然畫系不載矣無

知其詳轉害會屏風其所筆云

畫圖品目云畫光興

畫圖品類云轉害會六曲屏一座粉本一卷

補古畫目錄云轉害會六曲屏風繪本一

但羣書類從續編第六十四收轉害會記一卷

朝堂院古圖

國朝書目載之

補天蓋寶幢繪樣

補長秋記云長兼三年五月一日已刻參御所以盛

章令奏請云明日式部少輔國能為摸御佛飭可罷

向宇治云云然者佛師賢圓繪師應源工季貞等共

罷向堂構佛座光躰柱繪鴻梁繪供養飛天躰棟上

鳳尺寸如此事委注取矣便宜候欵度々罷向事可

有其煩故也

五日式部少輔國能來云一昨日卒細工等向平等

院每事委注取此中飭繪樣與實天蓋已相違繪樣

太本躰少也云云大工季貞木佛師兼圓使清助繪

佛師應元來示子細

六日召應源令畫天蓋寶幢繪樣

補調度の畫樣

補人車記云仁安三年七月四日繪佛師法橋賴源

畫御調度蠻繪之樣以代々本樣加今案議定也繪

師能登權守守茂畫師子形繪樣又副御調度樣可

畫進之由下知

補天武天皇御影

補集古十種肖像天武帝御影大和國矢田山金剛

寺藏

定家卿像 一幀

倭錦云信實定家卿肖像色紙為家卿

展閱目錄云信實朝臣筆定家卿像冷泉家所傳

補集古十種部肖像云藤原定家卿像或云冷泉家藏

實 補本朝畫圖品目云定家卿像或云冷泉家藏畫信

補真賴曰東帶の坐像ふり冷泉為村卿副書及
自詠の歌あり摹本博物館ふあり

同 一幀

本朝畫史云慈照院殿諱義政馬藤原定家之像自
如賛詞于其上特技尤

補同



定家卿像
冷泉家藏

長命

北補考世畫評卷八

補東野州、聞書卷二云、順徳院のあそはさきける
定家卿の影何れ以之招月繪所ふうつささて容
殿ふかけらきさる其賛ふ志きしまれ道をきと
めくうへそなきあふのさらめや定家の風

補同

補集古十種肖像部藤原定家卿像備前國岡山商家

河本又三郎蔵

補真頼曰、直衣ふて坐像なり

補同

一幀

補繪隆信冷泉家藏摹本博物館ふあり

補真頼曰、束帶の坐像ふり

傳教大師像

一幀

倭錦云巨勢公忠傳教大師影多賀般若院什物題

號小野道風

補同

補集古十種肖像部云、傳教大師像備前國千手山弘

法寺蔵

補真頼曰、椅子に坐して眼を収むる像ふり

補同

一幀

補所蔵者不詳畫工不詳摹本博物館ふあり巨幅

ふり

補真頼曰、椅子の上ふ坐し閉目をる像なり畫

上ふ賛辭あり哭澄上人云云弘仁十三年十月

十七日と見正さり筆者不詳

補同

一幀

補京師廬山寺蔵畫工不詳摹本博物館ふあり巨

補集古十種

幅あり

補真頼曰閉目して椅子に坐せし像あり左右に二僧侍坐と

補同 一幀

補二尊院藏畫工不詳巨幅なり

補真頼曰摹本博物館あり廬山寺所藏の像と大略同じさまよて小異あり閉目して椅子の上に坐せし像あり左右に二僧あり

補北典司の像

補集古十種肖像部北典司像東福寺藏

補本朝畫圖品目云僧明北像自畫東福寺藏

補真頼曰摹本博物館あり半身の像あり吉山明北行年三十二永徳三年六月十八日圖之

と見正さり印あり畫ハ自畫して法衣のやぶきたる端を結びあてて着たり畫上ハ讚あり其文ハ云ハく諸佛非我道何者是我道父母非我親阿誰是我親衣破戒不破身貧道不貧多劫植徳本乘此大願輪有時拈起一毛頭現出五百大比丘緬思昔時老禪月與此吉山一風流移來一會天台山見者聞者嗟嘆退耕隱者性海叟摩掌老眼子細看也奇特不思議天上人間希有瑞且道吉山是為誰永明之孫智覺子吉山北上人圖東福五百羅漢不得回錦自寫吾形奉呈北堂仍詰其證前南禪退耕菴主性海叟隨需而筆之云とあり然るを此の像安永九年燒失せりをむべしこまふり先住吉廣行此

の圖及五百羅漢の圖を摸寫せり廣行其の燒失せざるを惜しみ更ニ摸寫してこきを東福寺に納む今何れところの像をあらはちこきあり住吉家小海藏院の文書あり其文小いこき未得貴意候得共一翰啓上仕候秋暑之砌彌以御安全可被成御座珍重奉存候然者本山東福寺北殿司自畫肖像六年以前於塔頭正統院燒失仕候段御聞及被下先年北殿司五百羅漢繪像并右自畫肖像奉入御上覽候節御寫被成被置候由ニテ此度右肖像御寫御添筆被下其御地淺草旅宿ヨリ為相登落手仕候早速本山表及披露申候處住持始山中何モ殊外致大悦五百羅漢繪像一所ニ本山寶藏江相納永々重寶仕

可申由ニ御座候右御禮從拙僧宜鋪申上候様被申付候依之些少之一品入貴覽申候御笑納被下候ハ、忝可奉存候恐惶謹言

七月廿五日

海藏院

住吉内記様 貴下

又廣行の箱書付あり其文小云く吉山北尊者自畫肖像一幀為其慈母所畫如退耕海公之畫賛安永甲午我王命師之所圖五百羅漢五十鋪悉以觀之乃命令臨寫我黨應命寫二十鋪蓋其他畫圖得併觀曼觀師之肖像心生歡喜願然啓護持僧曰我家累世以土佐氏繪事為業苟深持此技者豈於師唐捐乎且夫師丹青之妙至于茲者禪慧之餘靡而已我黨何幸奇遇師肖像乃

臨寫將充家宝乎。僧云止々夫師之描模吾院不許猥觀而今國家召觀者公事而已敢私乎予復懇求云贊云衣破戒不破身貧道不貧以茲寄心道儀敢以吾業不訟襲矣再三懇求僧云公之懇求不為繪事鑽仰師德信心厚者寧四百年來兆公化俗之一助乎從容而諾焉於茲臨寫肖像及贊辭偉容初墜吾手而后數年東福真像一時以故烏焉以此曩昔予所擬肖像終贈本院補缺焉於乎師之道德不朽戒珠昭然猶存而已昔天明年乙巳季夏東都住吉內記藤廣行謹記

右北殿司肖像之記書畫篋蓋裏贈京北東福海藏院和尚以為寺鎮云爾

かく以ごとく見止り

補天隱和尚像

補天隱語錄部贊自讚天隱翁來也唯々大雲門下四世禿丁佛海派中一了渡子說法五六會咸木上座之威應緣七十年弄絲傀儡之伎紫衣纏身金襴搭肩阿呵々似則固似是則未是山僧居東山丈室之日小師龍岷首座命工圖陋質以需拙贊即書數語應來意其後十年又寫斯像請書其上一了幻身無安著處依樣畫葫蘆為什麼不待他人點檢因自訂云

補貞安上人像 一幀

補京師大雲院藏畫工不詳摹本博物館小あり
補真賴曰右手に團扇をもち曲録にのまろ像なり畫上小建仁寺の通憲の贊あり

地補
補
補
補
補
補

登部

補 遠山有明月の御障子

補 源平盛衰記卷二二代后云彼紫宸殿の皇居ニ

ハ賢聖ノ障子ヲ被立タリ中畧金岡カ書ケル荒

海ノ障子ノ北ナル御障子ニハ遠山ノ有明ノ月

ヲソ書レタル故近衛院未幼帝ニテ御座ケル當

時何トナキ御手スサニ書曇ラカサセ給タリ

ケルカ有シナカラニ少モ替ラサリケルヲ御覽

シケルニモ先朝ノ音ヤ戀シク思召ケン御心ノ

ノ内所セキマデ思ツツケサセ給ケルコソ御

イタハシケレ

補 渡宋天神の御影

補 倭錦云土佐光輔渡宋天神贊尊應親王

白眉方下書卷六

補真賴曰て、部天満宮神像の條見合をべし
東福寺涅槃像 一鋪

本朝畫史云、明兆在東福寺所作、釋迦涅槃圖、廣二丈四尺、縱五丈、右方有紀、應永戊子十五年六月日、破草鞋、明兆圖筆、行年五十七、左邊記云、亨祿三載、庚寅臘月十一日、山中軍勢亂、入什物散失之後、深草大圓菴宗古藏主捨財求之寄附

補刀八毘沙門天の像

補倭錦云、宅磨勝賀刀八毘沙門

補頭血曼荼羅

補源平盛衰記卷十三 新院自嚴島還御の條 云、抑入道ノ嚴島ヲ崇給ケル事ハ鳥羽院御宇清盛安藝守タリシ時以彼國高野ノ大塔造營スヘキ由院宣ヲ賜

テ渡邊黨ニ遠藤六賴賢ニ仰テ六箇年ニ被組立タリケリ清盛則高野ニ參テ中畧金堂ニ曼陀羅ヲ書給ケルカ西ノ曼陀羅ヲ正妙トテ院ニモ召レ入道モ仕給ケル繪師ヲ以テ被書東ノ曼陀羅ヲハ清盛・自筆ニ書給フ九尊ノ中尊ノ寶冠ヲハ腦ヨリ血ヲ出シテ被書夕リ誠ノ志トソ人感シ申ケル

補真賴曰リノ部兩界曼荼羅及まノ部曼荼羅繪の條見あはべし

東大寺緣起 剛神緣起 三卷

補東大寺寶物目錄云、東大寺緣起土佐將監畫
補古畫類聚目錄云、東大寺緣起繪東大寺勸進所藏

好古小録云。圖中聖武帝行幸ノ圖アリ。聊考ニ備
フベシ。其餘見ルニタラス

展閱目錄東大寺條云。執金剛神縁起三卷。繪土佐詞一
條。大閣俗畫不
足看

倭錦云。土佐光弘。執金剛神縁起。詞一條。兼良公東
大寺什物

卷尾云。天和三年。修補繪土佐將監詞一條。大閣
躬行曰。此縁起。良辨僧都生涯ノ事を畫可けし

補可為曰。畫光信詞。兼良公
補真賴曰。志ノ部。執金剛神縁起ノ條。見合をべ
し

同大佛殿縁起 三卷

本朝畫史云。芝法眼名琳賢。南都東大寺之縁起。畫

者。琳之所圖

畫巧便覽云。芝琳。玄南都宅磨氏之後裔也。傳家法

精于佛像。繪四天王像於長谷觀音堂。亦有東大寺

古縁起五卷。三卷琳圖之。後叙法眼。慶長年間死

展閱目錄東大寺條云。大佛殿縁起三卷。上卷後奈良院

宸翰。中卷青蓮院尊鎮法親王。下卷西室公順僧正。

芝法眼琳賢倭錦
同之

補圖畫一覽。下卷云。品目云。詞後奈良院書青蓮院

尊鎮親王

補東大寺寶物目錄云。上卷後奈良院宸筆。中卷青

蓮院尊鎮親王。下卷西室公順僧正。繪芝琳賢筆

補倭錦云。芝琳賢。南都東大寺縁起外題。後奈良院

詞。同帝尊鎮公順本朝畫圖品目
亦同

卷後記云。上卷詞當今宸筆。繪芝法眼琳賢。中卷詞青蓮院二品尊鎮親王。繪同前。下卷詞西室公順。繪同前。

東大寺緣起。古來所記為廿卷。而依事繁多。見者聞之。聞者倦之。仍鈔至要。縮為上中下三卷焉。於上卷詞者。忝被深宸翰。訖披閱之。輩發修造之志者。足矣。于時天文五年。月日勸進沙門祐全。

補春村曰。東大寺寶物目錄。小大佛殿緣起。繪芝法眼琳賢とあるハ不審なり。詞ハ後奈良帝尊鎮親王公順僧正とあるハ時代をふまへ。彼の畫ハもし琳賢の父侍從のあけるふハあらぬ歟。

躬行。顯文抄。琳賢時代を論して云。多聞院

春日社古繪馬裏書
奉撰繪馬筆者琳賢
天文廿一年六月と
見込たり

日記畧に。南都の繪所侍從の子と云。天正十六年に十三四歳のよしみゆまへ。慶長の初の人といふべしとある。天文四年二月十八日。東大寺繪所日記に。琳賢殿とフゲカツ丸ト。東大寺兩繪所也。東大寺緣起大佛三卷コレアリ。二卷琳賢沙汰。一卷藤勝沙汰と記し。且本卷祐全の天文五年の奥書たし。あまき。琳賢天文中の人なる事。異論なしといふべし。但便覽琳賢を琳玄と作す。古縁起を五卷とし。慶長年間死をふと筆。よらとて記し。ハ例の杜撰。答ふ。足らば。續群書類。從目錄第七百九十三。此詞を殘さむ。

補真頼曰。東大寺大佛殿緣起。或東大寺緣起と

北村六言言

もいへる但執金剛神縁起も東大寺縁起といへきハ混まらば幕本三卷博物館ふあり

同二月堂縁起 二卷

寺僧云繪亮順筆

國朝書目云東大寺二月堂縁起一卷

展覧目錄東大寺條云二月堂縁起二卷書畫筆者不知

廣行云俗畫不足看

跋文云維天文五年冬東大寺帥法印英訓寺領のため美濃國に下向さしふ國中心ざしをこげましてそくむくれ寺納りしるバいそぎ歸駕を促し南都に向ひしに寺田とらいふ所の怨賊圍繞して荷物ことごとく奪却せしるバ則かの一村成敗を加へられ衆議をなし名字を二月堂に

こめらまき然るに今年十五年丙午かの寺田の黎庶等咸即起慈心小住して燈明料あまよもたせ二月堂會中二月ふまゐて申やう名字をこめらまきしより疾疫流行し命を失ひ身を滅をもれ數を志らびさまバ數百の家も亡室逃屋とふてとづらに残る所五六十家なり志らしおのらかなの御業れよし慚愧懺悔しやうてかの牛玉をひろかへし起請文をかき今よりハ東大寺の外護をいたまべきよし捨邪歸正せしるバ衆中奇異の思ひをふし赦免せらまけり神助眞罰未代といへどもあらたふるもの云云

躬行曰古縁起ハ享保中二月堂炎上の時とも小焼失せその燼餘の一段躬行手向山八幡

書目録

宮の社司上司延絃より相傳して弄弄せし上
下焦爛をしのども畫ハ全し。こハかの亮順が
筆よや。何人あるをあらざきども能畫也。今の
縁起ハ其後出来し也。續類從第七百九十六有
二月堂縁起一卷

補 真頼曰。摹本博物館ニあり

補 同八幡縁起

補 古畫類聚目錄云。東大寺八幡縁起繪古畫目錄亦こき小

補 同

補 東大寺寶物目錄云。東大寺八幡宮縁起二卷

補 古畫目錄云。東大寺八幡縁起繪。越前守行光筆

南都東大寺藏

補 天聽集云。天文四年九月十一日帥大納言八幡

縁起繪二卷上下見恭ニ入ル十二日東大寺八幡
縁起繪詞今日書之帥卿ニツカハス上卷許也繪
者大和國繪師也

補 春村曰。帥大納言ハ三條西稱名院殿公條也

又展閱目錄ニハ畫宗軒詞一條太閤寺務公順

祐全法印寄附之由天文四年道遙叟與書あり

と見返る筆者こハにあえび目錄のあハ誤也

るべし一條太閤ふてハ時代いりハあり

補 廣行曰。畫ハ俗筆なり

補 真頼曰。はノ部八幡宮縁起手向山の條見合

まべし

東寺縁起繪詞 一卷

畫土佐光信詞筆者不詳

卷後云此東寺緣起一軸者土佐將監光信所圖也
筆精墨妙誰敢聽冰哉於是漫書一言於紙末云
寬文八祀十月下澣宮内卿法印探幽

躬行曰此卷倭錦所載越前守行光筆天狗雙紙
五卷之内東寺高野之一卷詞ハ二條為明卿所
上光信筆と云るものハ誤ならむ此卷および
延曆寺醍醐の一卷官物とありて近時博物館
小あまると聞上

東征傳緣起

一名唐招提寺緣起

五卷

大和國唐招提寺藏

奧書云畫工六郎兵衛入道蓮行筆師嶋田民部本大夫行兼美作前司宣方足利伊豫守後室大炊助入道見性

補古畫類聚目錄云東征傳緣起繪大和國唐招提

寺藏古畫目錄亦おなじ

補倭錦云筆者不定東征傳繪圖唐招提寺什物

補本朝畫圖品目云東征傳緣起五卷外題鷹司殿表紙裏云奉施入唐招提寺永仁六年戊戌八月日

極樂寺住持沙門忍性

本朝畫史云畫工六郎兵衛剃髮稱蓮行也曾鑑倉貴族使蓮行畫鑑真和尚之行狀施於極樂行寺沙門忍性于時永仁六年戊戌八月也事在行狀之末此畫軸在大和招提寺之寶藏焉筆法出於宅間稍優柔而我國之風韻亦有勝於中華者

好古小錄云簽鷹司殿贖卷紙奉施入唐招提寺永仁六年戊戌八月日極樂寺住持沙門忍性卜

記ス。按ニ此卷及吉備公入唐繪。高山寺繪詞ノ類。畧其始末ヲ考フベシト雖。圖スル所多ク異邦ノ
吏ニノ。衣服器用ニ至リテハ。畫工ノ私意ニ出ル。
故ニ考古ノ益少シ

展覧目錄唐招提寺條云。畫古土佐。詞集書善畫也

道ノ幸同條云。繪縁起詞書。光明峯寺殿。世尊寺行忠

朝臣あどの筆まじりてみゆ

卷標裏書云。奉施入永仁六年戊戌八月日。極樂寺

住持沙門忍性

補真頼曰。鑑真和上東征傳の意を畫よかき文
を假字にりまきのべたりもれなり。畫の筆意は
あはたかたし

柵尾縁起或云高山寺繪詞 一卷

續群書類從第七百
八十八有高山寺縁
起一卷

補本朝畫圖品目云。柵尾縁起一卷
畫圖品目載之

東照宮縁起 五卷

下野國日光山蔵

畫住占廣通。詞宮門跡公卿合作

貫雄曰。御祭事圖一卷。谷副之。依天海僧正口授
如慶新圖之云

補真頼曰。日光山蔵東照宮縁起ハ。畫ハ廣通廣

澄二人の筆ふり。其故ハ。東照宮御縁起出米候

譯書住吉家蔵模本箱の裏云。寛永二。依南光坊

招土佐内記廣通。後住吉如慶。關東江下向仕。則

天海僧正御口授ニテ。調畫畢。武州仙波喜多院

一部。紀州和歌山御宮一部。備前岡山御宮一部

續群書類從卷八

日光山御宮一部右四部之内當時日光ニ納リ
有之候者廣通悴住吉内記後法眼具慶廣澄書
繼仕候而延寶七己未年八月五日嚴有院様江
奉差上候所追而御褒美頂戴仕候其後日光御
神寶ニ相成候由住吉内記廣守誌

同

五卷

畫狩野守信詞筆者不知

補畫工便覽卷五云守信號探幽齋云云寛永十二
丙子奉大猷公鈞命圖東照宮縁起殊有旨云云
詞最末云神ハ敬小よと威をまし人ハ信を以
て得を益を故小東照大權現因位の徳を縁起
圖し末代又傳へ道俗是を閲して尊重のおもひ
を發さば靈驗まをり掲焉ならしむ肆小忝也

狩野守信蒙御下知信敬の抽丹誠朝暮數年退慢
ふく令書功故小法眼繪所を下さる是以御神徳
也

補真頼曰予あるところにく東照社縁起摸本
五卷を見し但しいつきの蔵あるを志らば詞
書ハ後水尾天皇をよめ親王家堂上數人ふ
て畫ハ狩野守信ふり恐らくハこの摸本ふら
ん

補

同 五卷

補日光満願寺藏詞筆者成嶋圖書頭畫住吉桂意
住吉桂舟住吉内記

補真頼曰此の繪原圖ハ住吉如慶あり如慶の
あひけりハ近きころ火災おひてりさけ

るを更おまよその圖およまて作らしたる
ふやとぞ

補同 五卷

補尾川家藏住吉廣行筆

補住吉家藏住吉廣通東照大權現縁起奥書云御
縁起僧正之御口達ニテ廣通畫ら、き候得共下
畫之事故元来色附紋書ともなく圖取り之おて
有之の處天明年中尾張大納言宗睦卿之依命廣
行小御縁起壹部可奉畫仰こと有之御國御宮小
御奉納可被為有其砌此御下畫紋様色付も今兼
候ニ付日光御宿坊日藏院江御屋形よま拭合御
別當大樂院御預り之如慶廣通真蹟御縁起内々申
脱弟子とも拜見紋様色付等引競直下畫お認込

夫故一々模様等も委鋪相分り尾州候御縁起出
来申候元来天海僧正御口達おて如慶新小圖畫
方先出来候事故御詞跡ニ而出来候様右故前々
御詞書無之幸ひ其砌御本紙御詞書を寫取

補真頼曰この縁起の圖繪詞とも小日光山な
る縁起とらむることおし詞のニハ晃山拾葉
卷二小掲載をり因て按をる小武州仙波紀州
和歌山備前岡山小あるものも亦おあしこと
ありべし

補同 六卷

補紀伊國和歌山東照宮藏住吉廣通筆

補真頼曰全部五卷の外小祭禮圖一卷あり予一
べく六卷おり祭禮圖摸本住吉家おあり予一

見之

補同 五卷

補武藏國仙波喜多院東照宮藏住吉廣通筆

補同 五卷

補備前國岡山東照宮藏住吉廣通筆

東大寺戒壇繪詞或云天狗草紙 一卷

畫工姓名不傳

卷後云右繪之詞光嚴院宸筆無疑貽者也權大納言光廣謹記之

躬行曰倭錦小天狗雙紙五卷の内東大寺の卷繪行光詞後光嚴院宸翰と云るもの即是あり

補少ふのあかり繪 一卷

補前田利嗣藏畫後光嚴天皇宸翰

補真頼曰此の卷詞小豊明云云とりき出せり故小とよ此あうり繪といふ繪ハ白描あり

補伴大納言繪 一卷

補看聞御記云嘉吉元年二月廿六日抑若州松永庄八幡宮ニ有繪云云淨喜申之間社家江被仰て被借見今日到來有四卷彦火々出見尊二卷吉備大臣繪一卷伴大納言繪一卷金岡筆云々詞之端破損不見古弊繪也然而殊勝也禁裡為入見參召上了

同繪詞一名應天門繪詞 三卷

補圖畫一覽下卷云伴大納言燒應天門圖三卷現存ノ本二卷アリテ一卷ハ既ク紛失セリトイヘリ夕、シ住吉家ニハ摹本三卷トモニアリ紛失

以前ニウツセシナラントイヘリ又按ニ嘉吉元
 二廿六看聞御記ニ金岡筆伴大納言繪一卷トア
 ルモノハ別物ニヤ考フベシ
 好古小録云三卷畫者姓名闕畫力精絶事々古ヲ
 徴スベシ首卷詞逸ス
 類聚目錄云伴大納言繪小濱酒井家人武久某藏
 詞參議雅經卿
 倭錦云春日光長伴大納言草子詞雅經卿
 補異本土佐系圖云光長云云頭注云伴大納言善
 男燒應天門圖之筆者
 補本朝畫圖品目云伴大納言繪卷三卷畫光長在
 若狹國小濱領農家
 補古畫目錄云伴大納言繪三卷詞書參議雅經卿

若狹國小濱家中武久庄兵衛藏
 天覽始末記云此畫詞寬政初年以久我内府通明
 公被召入天覽同八年丙辰副文書一通被還下其
 文云右造内裡之節秘府之畫圖者勿論諸家傳來
 之舊圖偏被召之雖有種類許多摸寫或麤畧不足
 據信處裏松入道固禪言上酒井修理大夫僕從所
 藏之古畫為分明由嘗傳聞言依之酒井家有由緒
 可被召進之由被蒙仰乃速被備天覽之處畫品殊
 絶雖數百年無欠損古時之制作粲然可考也仍下
 畫所可被新寫之處元來秘藏雖不出閭外不慮之
 内命不堪喜懼奏覽之旨被言上之間則被仰于近
 臣久世宰相公務之暇令摸寫之精密細畫施工不
 容易已向漆樹星霜卒其工因返給畢宇内罕物不



白濁の...
酒井忠道藏



伴大納言繪詞
酒井忠道藏

伴大納言繪詞

愛畫永歷天覽。獻感不斜。為神妙之旨。御沙汰候。彌可為秘賞之由。宜令示傳給候也。四月廿六日實種

今出川大納言

久我殿

躬行曰。此卷畫圖品類。武久平藏所傳と載た
きど。天覽始末記。ハ武久庄兵衛昌扶所藏と
記せし。抑此物語ハ善男大納言應天門を燒き
て。其罪を信大臣小嫁をよしふる可。真蹟一
傳の摹本と。刻本宇治拾遺物語第十小載る處
とを校するに詞大同小異にして。畫卷ハ卷首
ふと左のおとゞハあやまちさることもなき
ふ。云々ま傳の詞かけたり。又云雅經卿ハ光長
よりも後輩にして。時代合がたし。其ゆゑよし
ハ年中行事畫のところにいふ處し

補真賴曰。伴大納言繪詞摸本三卷。文詞注一卷
をべく。四卷博物館小あり。與書云古土佐筆本
寫松平越中守殿より來り。文化八年未年六月
廿一日玉川養信寫とあり
補又曰。明治十三年四月上野公園の美術會小
酒井忠道此の畫卷を出し。三卷あり。一卷紛失
といへることいふもどや

時秋繪詞 一卷

畫圖品目云。畫光長。詞為家卿。柳庵隨筆同之

補本朝畫圖品目云。時秋物語二卷。畫光長。詞為家
卿

元榦曰。畫信實朝臣。詞為家卿也。光長小あらび
森傳右衛門尹祥の愛玩をしを。姫路の酒井侯

懇望して所藏せらる。群書類從第四百八十三
に、此詞を收し、彼原本小上と云ふ所、纂なり
躬行曰、光長ハ兼安中の人、為家卿ハ建治元年
五月一日七十九歳薨也、光長よ上ハ後輩あり
信實朝臣ハ兼久中の人、為家卿長壽の人なき
ハ、年歴の違ハあらじかし
又曰、此足柄山のふることハ、著聞集等をもじ
め、なにくまの書らにみ正て、みな時秋とせり
然る小時秋ハ、康和二年小生ま、永保寛治東
征ハ當時、未生已前あり、源義光ハ時秋ハ祖父
時光ハ弟子おま、足柄山の物語ハ、時秋ハ父
時元おるを、まやう時秋とハあやま上傳へさ
るよし、筑後守豊原文秋、樂所補任、鳳笙相兼記

等を引證して、佐むらに辨へ記したり、天保の
末つらさお上けん、時の時元ハ七百とせの忌
辰お、何さまを、上、文秋ハ男筑後守陽秋、大曲
相傳さる人々、れうぎ、詩歌を、おとんとて吾
妻に下上來、我おもと小、此勘文をおこせ
た、上、さ、さて此物語を、時秋ふら、時元なりと
い、る、ハ、續教訓抄、卷十の一説お、も、時元早く
親を喪ひて、秘曲を極め、刑部丞義光、小、は、き
て、残る所、の曲調を習ふといへども、いま、大
食調、入調を傳へ、む、義光、ま、上、征伐のため、に、關
東、小、赴く、時元、隨ひく、逢坂の關、不、至る、義光、志
を察して、松杉の蔭を、ま、ら、ひ、楯を敷て、入調を
授くと、いふ事、之、迄、て、あ、ふ、さ、ら、山と、足、が、ら、山

とを違ひたまきど。まべてハ今の時秋物語にお
なじ。さまきど是もまこと志あらび。そハハ
といふ。同書同卷ハ大食調入調ハよくく秘
藏をしむる曲あり。時元ハ親の時光におくま
て。時忠ハハならひける。習そんとてハ。おな
兄といひあふら。従者ふどのやうに仕もれて
よくく久しく何ぞぞ教へける。云云とみ
正たまハ。時元兄の時忠に習ひけん事あるく。
又義光ハ時忠時元等父ある。時光ハ弟子ふ
まきど。秘曲ハ傳へて何ぞしを。時忠ハ幡別當頼
清と事あてく。勅勘かうぶ。いづちともふく
うせふんとしけるを。義光ハとをしがてく。下
野國ふる志る所ハ下しやらんとせしをり。時

忠いたくよろこばひて。かめ入調を授けつぎ
ど。なほ惜く。秘手一を教へ洩しける事。後ハ
あらもきて。おもふる事ふども同巻ハ載
た。ま。交丸物語れくた。唐竹相まじも
る故。小。ま。ぜ。丸。と。號。を。自。愛。し。て。や。ま。を。年。數。あ
りて門弟刑部丞義光ハ傳へ。いま。旬。日。を。も
る。ざる。ハ。挑。戦。の。た。免。に。奥。州。ハ。下。向。を。時。忠。噬
齋。て。以。て。従。ふ。い。さ。む。き。ど。も。さ。る。ハ。既。ハ。あ。ふ
さら。ハ。關。ハ。至。る。ぬ。云。云。義。光。重。て。相。謂。て。い。ま
く。所。傳。の。名。管。む。な。し。く。夷。狄。の。郷。に。朽。お。む。と
い。ひ。け。き。ハ。答。て。暫。く。樂。府。ハ。お。る。ん。答。ふ。天。命
を。ま。さ。く。さ。バ。歸。り。て。得。ん。と。時。忠。外。ハ。謝。し。内
に。何。さ。む。き。て。取。て。去。ぬ。と。是。も。ま。ハ。同。卷。ハ。記

せきバ、時忠交丸とぞあへさむとて、逢坂ま修
ハ行たるなりけり。げハ相摸國足柄山ま修ハ、
道もあまをにそるゝなれば、此交丸や本説あ
らむ。然まども隆圓ハ文机談ハ、兵衛尉義光
ハ笙の笛の宗匠ハ、豊原ハ時忠に入調をし
へて、今のふれ、真者をたぎけるといふ事ハ、こ
匠たまど、あハかくハ名のたふこ、そあやし
けまおもふよこ、時秋れ、ならび、時元ハも
あらび、上件のことハ、もとまじへ、早う
かまへ出さる。作里、そのか、とあらむらし

補童子繪 一巻

補真頼曰、筆者不詳、卷頭ハ安躰文十五保五ニ出家尋慶
と初として、松住嘉曆を卷尾とし、をへ、童子十

人の坐像あり、盡く長絹を着せり

豊玉姫物語 三巻

法眼如慶筆

補常磐井殿牛の圖 一巻

補圖畫一覽下卷云、常磐井殿牛圖一巻、畫隆兼

補真頼曰、此の繪或ハ駿牛繪詞ともいへ、
ノ部見合をべし

補常磐物語

補同書云、畫圖品類載之、不記卷數并筆者

補本朝畫圖品目云、常磐物語

補真頼曰、此の物語ハ常磐姫物語

補常磐の巻 一巻

補圖畫一覽下卷云、品目ニ不記卷數及筆者品類

云保元平治の零本なるべし

補本朝畫圖品目云常磐之卷一卷

補取らへむや物語繪

補明月記云貞永二年三月廿日云云日來撰出物

語月次五十二月不レ入源氏并狹衣於歌ハ披群他事

又院御方別被書此所撰夜寢覺御津濱松心高

東宮宣旨左右袖濕朝倉御河開留取替汝也末

葉露海人刈藻遊以十物語撰每月五金吾清書

訖又加一見返之付繁茂進入云云以取交為興

東大寺正倉院寶物圖 七卷

補本朝畫圖品目云東大寺勅封倉寶物圖一卷

好古小録云余見ル所三種アリ一ハ普通本一ハ

琴及象牙等ノ圖アル本一ハ都維那祐想ノ摹本

東大寺蓮華院留因
法印元祿六年五月
正倉院開封記云建
久四年癸丑八月廿
五日此年有御倉修
復也修復之間移置
寶物於綱封倉三倉
之外別有綱封倉中
項此倉朽壞故以三
御倉之南倉代之三
倉元中北南共有勅
封此後中北為勅封
南倉為綱封と云り
今記又云綱次修行
南中北三御倉續錄
畢歸假屋次修行至
勅使之假屋請取御
封付中北二御倉之
鐵又至別當假屋請
取御封付南倉之鐵
了歸假屋云云と云
きハ此時も南倉ハ

元幹曰天保七年本院開封の次新圖五卷を製

す精妙なるを然きども或人所藏百年前所摹の

圖を見るに今たらざるものあり可嘆

躬行曰余明治五年已來本院に開封小遇ひ寶

器に親しむ事既小五度明治十年ハ其事に關

き本院中の寶玩天平勝寶獻物帳及曝涼目錄

出納簿等に檢ふる小現存する所僅小十の二

三小過ぎるべく二王真跡卷十義之少二十卷

の法書歐陽詢の真跡の屏風寺其景影をどに

存せざるもの尠あらばといへどもふは長櫃

一百合あり悉く畫き盡すべし小あらば況天

平已來の文書卷子小裝潢するもの百卷餘あり

是を成卷文書と稱ふ

勅封おちらびさら
ハ天保四年の時よ
りおや

續群書類従目録第
七百九十五有東大
寺勅封倉開檢目録
一卷

東大寺勅封倉開檢目録

又曰本院ハ又庫弘十八間深五間東ニ向ひて
三戸を設くかき三ッ倉とも呼べり東大寺續要
録寶藏篇及三綱修行藥師院實延テ三倉開封
記等をみるに三戸のうち北中の兩戸ハ素よ
レ勅封おまきども南れ一戸ハ寺家の公物を藏
めく寺務の封あり三綱其事ハ關きバ綱封倉
ともよべテ天平勝實九年正月廿一日の寺司
の記文ハ雙倉と識志しハ其始ハ雙倉おまきし
おやま々天正二年甲戌三月廿九日年預五師
淨實ガ三倉開封日記云三ッ倉ノ内北ト中トノ
倉ハ勅封ヲ付テ鏘鎰ハ京都へ勅使御隨身ア
リ云云南倉ハ當寺ノ別當ノ封ヲ付ク三綱所
出納スル故ニ綱封倉ト云ハ則今度ノ勅封ハ

中ト北トノニ付ラレテ南倉ニハ寺務ノ封
ヲ付畢云云但寶庫ノ鎰其後寺務ノ預トナル
云云とあるおまき明らおまき然るを元禄六年五
月十六日開封の時よレ南を併せて三戸とも
に勅封トハ成まらおまき其ゆゑハおまき夫
よレ御物寺物混淆して差別なく成おまき假
令ハ伎樂の假面及調度許多の幢幡寶蓋帷幕
の屬ハ華籠等おまき佛具又布衣雜色已ニ應
永の年
のちおまきおまき寺物なレしハ論おまき其
他よくらわがへおまき大方ハおまきぬべしさ
てまとの北上おまきしを今ハ南を上として專
ら貴重れものらを藏め中ハ是ハ次く北ハ大
きな破損のうつもの損おまき屏風の木

續群書類従目録

北齊書卷之八

榻まゝの大牀古き長櫃からひつをたし入さ
し。是等えうなきことあぶら後考のためよ記
す

同藏琵琶

捍撥塗朱上畫着色山水胡人田獵圖槽紫檀至覆
手轉手海老尾全身以設色象牙及螺鈿玳瑁等鏤
花鳥

同

捍撥畫胡人長少四人於白象上為鼓吹歌舞之圖
槽紫檀以瑤瑁螺鈿嵌華藻小禽

同

捍撥畫鷹博水禽圖槽紫檀素文

同

捍撥畫水上遊禽圖槽素文

同五絃琵琶

捍撥螺鈿嵌胡人駕橐馱彈琵琶之圖槽紫檀以螺
鈿玳瑁鏤花卉小禽

同阮咸

捍撥畫子女四人偃座彈阮咸之圖槽紫檀以螺鈿
嵌瑤珞雙鳥

躬行曰此婦女四人各眉間上小圓點を畫く
菩薩の如し其故を志らば按る小正倉院中今
假小仙女樹石屏風と名くる圖其女子おのゝ
眉間および口吻尔小圓點を装せし記して後
考をまつ

同

繪圖考古書譜卷八

捍撥畫三人圍碁之圖槽素文

此に五弦琵琶を載たる。阮咸もやめて其屬ひ
おきバ、之洩しあへむ。なほ和琴新羅琴も、金泥
もて花卉を畫けりもあきど、畧之

同撥 二枚

一枚紅象牙雕花鳥文、一枚木以金銀泥畫花卉
按小此撥二枚とも形小にして且薄弱なり。琵琶
に用る小堪へば、疑らくハ阮咸の具足あらむ

東大寺境界布圖 一鋪

藏于本寺長九尺濶七尺、以布三幅合縫造之。布弘
各二
六尺四寸畫境內山林堂塔記云東大寺圖依此圖定山
堺、但三笠山不入此堺。天平勝寶八歲六月九日定
堺為寺領也。大僧都良辨左少弁從五位下小野
朝臣田守治部大輔正

東大寺戒壇院扉繪 一卷

五位下市原王造寺司長官正五位上佐伯宿禰今
毛人大倭國介從五位下播美朝臣興人等連署
記云天平勝寶七年九月三船真人元闕筆高山
寺什
躬行曰白描佛像の畫稿あり、甚畫力あり。香子
とおせり

東大寺若宮八幡宮寶物圖 五卷

補本朝畫圖品目追加云東大寺若宮八幡宮寶物
圖五卷

東大寺大佛繪傳 二鋪

畫工姓名不傳南都眉間
寺所傳
貫雄曰此畫筆者隆信朝臣ふるべし、當時を看
るに足きり大幅あり

東大寺知足院佛龕繪

躬行曰來迎寺十界
圖ハ弘高ダ筆ハ
あらハ

畫圖品目云地藏堂扉金岡筆

貫雄曰知足院地藏佛厨所畫前雙扉不動毘沙
門左右扉地獄餓鬼畜生修羅但背面人間天道
二圖燒失了巨勢弘高所畫與來迎寺十界圖可
伯仲為金岡筆者誤矣

補真賴曰ちノ部知足院本尊厨子の扉の繪の
條見合屯べし

東福寺法堂畫

本朝畫史山樂傳云豐公修營東福寺法堂天井有僧
明兆畫龍嘗逢雷雨而損公使永德補之畫雲未畫
龍而永德罹病危急乃授其草本於光賴以補成明
兆所畫其紙壞光賴去其紙施粉於板上龍頭二丈
餘身長十八丈數日終其功光賴晚號山樂

躬行曰此二圖皇朝巨畫之魁不有過之者故併
識于此

鳥羽造道及朱雀川圖

一鋪

好古小録云年號不見疑クハ五百年許所圖ナラ
ン

補本朝畫圖品目云鳥羽造道及朱雀川の圖

補土佐家藏馬圖

補同書云土佐家藏馬之圖畫者不知

補鳥羽僧正つじ風の繪

補古今著聞集卷十一云鳥羽僧正ハ近き世ハ
ならびなき繪書ナリ法勝寺金堂の扉の繪書た
る人ふといつ程の事ハ供米の不法の事あり
けり時繪ふかきける辻風の吹さるに米の俵

をわはく吹上たるの塵灰のぶとく小空よあが
るを大童子法師原はしりより取とゞめんとし
たるをさまゝくおもしろ筆をふるひてか
かきけるを誰か志とせけん其繪を院御覽じて
御入興何事なり其心を僧正お御たづね有らま
ばあまに供米不法お候て實れ物ハ入候まで
糟糠の之入る軽く候故お辻風お吹上られ候を
さりとてハとく小法師原が取とゞ免んとし候
がをりしう候を書き候と申されらま比興の
事お望とてそれより供米の沙汰きびしく成て
不法の事なり

補東坡圖

補倭錦云足利義持公東坡畫賛京都等持院什物

補鳥羽勝光明院の柱扉及壁繪

補續本朝文粹卷十二云鳥羽勝光明院供養敦光
朝臣敬白云云四柱圖繪胎藏金剛兩部諸尊像四
面扉圖繪極樂九品往生并迎攝儀式佛後壁表裏
圖繪廿五菩薩像并極樂九品變像

補東寺華縵繪

補東寺所藏

補真賴曰牛の華を用てはくりて兩面お彩繪
を作まり剥落して顯然おらびよく見るお迦
陵頻の畫おり寺傳お東寺創建のときお所用
なるといへり此の華縵一枚博物館おあり

鬪鶏圖

畫工未詳無詞書微細圖

或云類聚目錄所載の神前闌雞圖同之といまぶ
是非をしらぶ

虎丸琵琶

撥面畫竹虎槽華李内有銘右馬助藤原孝時之器
也三條家所傳

燈籠諸圖 一卷

畫圖品類載之

奧書云天明二年壬寅復五月摸寫半井宗珠瑞成

補本朝畫圖品目云燈籠諸圖一卷

補度量圖

補本朝畫圖品目云度量圖

補直物仗座の圖

補山槐記陣執筆云直物仗座圖之圖右圖就二卷

次第注之可用也

舍人親王像 一幀

補乘名侯所藏後狩野晴川院藏文政十二年焼失
繪大藏卿絹本摹本博物館小あり

補裏書云舍人親王尊像一幅大藏卿筆和州十市
郡田原本樂田寺三品庫方永代奉寄進之畢相傳

次第賢觀房法印長慶長禪房賢海實禪房賢圓清
慶曆廿三 戒十四

補真頼曰赤袍を着たる坐像なり前小十六脚
案あり卷物を載せし上に錦帳あり畫上小
置色紙二枚あり

補德川家康公像

補京都大雲院藏

舍人親王像
摹本在博物館



補真賴曰束帶ふく坐像なり顔圓く耳甚大く
し模本博物館ふあり

補曇侍者像

補天陰語錄部贊云題曇侍者遺像東山西華曇侍者
前弘祥子敬西堂季子也為人謹慤如老成人九齡
之時命予剪雙髻作僧童相從者三四年也父母只
有斯一男以故撫之如掌珠也十九歲之冬出眾問
禪拈華堂中聳動群聽至今稱焉予亦竊喜新豐門
下出一佳衲也明應癸丑十月十一日二豎作崇而
亡矣嗚呼天乎哉其父津送予俄唱秉炬之語盖不
忘少日同床也今茲小春父母入寺供佛齋僧營一
周之忌齋畢出一小軸曰頃者檢故紙之中獲箇片
畫其眉目乃吾兒也伏兼和尚戲筆之餘及之是否

焉願賜一語掛壁上以供香灯也予今不記之雖然
閱之熟視則西華竹馬之年予見其兩頰豐盈戲馬
之以為調笑者也不付于爐中而藏于篋中平生誠
心益可見哉不覺老淚承睫西華二十四而沒予今
七十三而猶殘彭殤不齊者吁可怪焉古人曰戲言
出於思戲動作於謀發於聲色見乎四支者夫是謂
乎因賦一章以慰父母之感云昨夢無蹤方感深何
知片楮尚存今雖吾戲筆却揮淚料得朝來父母心

